付　伊エ紛争をめぐる諸問題

97　昭和10年1月18日　在伊国杉村大使より広田外務大臣宛

伊仏ローマ協定成立後における伊国のエチオピアに対する態度の変化につき在伊国各国大公使より聞込みについて

機密第二四號　（2月15日接受）

昭和十年一月十八日

在伊

特命全權大使　杉村　陽太郎〔印〕

外務大臣　廣田　弘毅殿

伊太利「エティオピア」関係其後ノ成行ニ関シ報告ノ件

伊「エ」ノ関係ハ伊國側カ盛ニ武器彈藥ヲ送リ戰備ヲ整ヘツヽアルニ拘ハラス表面稍下火トナリタルカニ見ユルカ右ニ付各方面トノ接觸ニ依リ得タル情報大要次ノ如ク報告ス

一

伊國側ハ昨年十二月中旬頃迄ハ佛國側カ阿弗利加ニ於テ爲サントスル讓歩ノ余リニ僅少ナルヲ憤慨シ「スウィチ」「アロイジ」等ハ断シテ折合フコト能ハスト唱ヘタルモ佛ヨリ伊ニ対シ阿弗利加ノ或ル地方ニ平和的「ペネトレーション」ヲ爲シ且其方面ニ於ケル治安維持ノ爲警察的措置ヲ講スルノ自由ヲ認ムト申出スルニ及ヒ伊ノ態度急ニ緩和シ終ニ羅馬協定ヲ受諾スルト共ニ大手ヲ振ツテ「エ」ニ対シ策動スルニ至レリ（右ハ一月十六日芬蘭公使カ極秘トシテ語レル所ナルカ同公使ハ小國ノ代表者ナルモ識見高ク在伊四年ニ亘リ各方面ノ内情ニ通シ「ムッソリーニ」ノ腹心某ト永年ノ親交アル由ニテ対蘇関係ヨリ我トノ接近ヲ重要視シ夫レ（ママ）爲種々打開ケ話ヲ爲スモノノ如シ）

然レトモ英國側ハ伊ノ策動カ漸ク露骨トナルヲ見テ坐視スル能ハス「エティオピア」代理公使ノ語ル所ニ據レハ一月十五日「ドラモンド」來訪シテ『断シテ戰爭ハサセヌ故「エ」側ヨリ挑発スルコトアル可カラス』ト忠告シタル趣ナルモ進ンテ「エ」ヲ支持セントハセス只先頃來病気ニテ引籠リ中ノ「ド」カ羅馬協定成立ノ直后病ヲ押シテ「ムッソリーニ」「ラヴァル」ト會見シタルト同シク今回モ無理シテ外

出シタル點ヨリ察スルニ英國側カ相当大ナル関心ヲ有スルモノト見テ可ナランカ

伊國側ハ「エ」側ニ対シ最近俄ニ態度ヲ豹変シ嘗テハ「エ」代理公使カ重要ナル申入ヲ爲サントスルモ伊國外務省ハ門前拂ヲ喰ハセ公使カ愁訴歎願スルニ及ヒ文書課ノ一書記ヲシテ面會セシメ其手交セル文書ノ如キ如何ニ処理セラレタルカ不明ナルノミナラス暗号電信ノ発受ヲ差止メ理由ヲ訊セハ「料金支拂ノ保證ナシ」ト嘯ク等羅馬外交界ニ於テモ伊國側ノ辛辣ナル遣口ニ対シテハ非難ノ声漸ク高マラントシタルカ其后國王陛下態々代理公使ニ謁見ヲ賜ハリ懇ロニ伊「エ」親善ヲ説カレ「大戰ノ苦キ経驗ヲ嘗メタル伊國トシテハ干戈ニ訴フルヲ欲セス」ト述ヘラレ又「ムッソリーニ」モ代理公使ヲ接見シテ一時間十五分ニ亘リ長廣舌ヲ振ヒタル由ナリ

右ニ付「エ」代理公使ハ「ム」ノ話カ余リニ長ク要點何処ニ在リヤ捕捉スルニ苦シミタルモ『伊ノ人口增加ハ自然新（「欠カ」）領土ヲ必要トス「エ」ノ如ク廣大無邊ノ領土ヲ有スル國ハ多少ノ土地ヲ他ニ讓リタリトテ苦痛ナカラン」等放言シタレハ「ム」ハ王様トハ異リ到底信頼シ得スト思ヘリ』ト語レリ

二

伊ノ対「エ」工作ハ三年計画ノ由ニテ先般國王陛下カ「ソマリー」ヲ御巡視遊ハサレタルカ如キモ準備工作ノ一部ナリト解セラル伊國側トシテハ差当リ「エリトレー」方面ニ接スル「エ」國内ノ金鉱及「プラチナ」鉱ヲ手ニ入レントスルモノナレハ成ルヘク砲火ヲ交ヘスシテ目的ヲ達セントシ苦熱ノ地ニ伊國兵ハ適セサレハ主トシテ土民兵ヲ第一線ニ立タシメ殊ニ飛行機ニテ「エ」軍ヲ脅カサントシ又軍事行動ノ外ニ「エ」國内ニ勢力アル印度人ノ首魁等ヲ羅馬ニ招致シテ策動ノ手段ヲ授ケ若クハ國境方面ノ酋長ヲ懐柔シテ其用ニ供スル等能フ限リ平和手段ヲ以テ所期ノ目的ヲ達成セントシツヽアリ

右ニ付「セルビア」公使ノ如キハ伊國ノ慣用手段ハ何時モ威嚇シテ目的ヲ達スルニアレハ「エ」公使ニ対シ「セルビア」土耳古ノ如ク飽迄頑張ルヘキコトヲ忠告シ如何ニ飛行機ニテ威脅スモ歩兵ニシテ續カサレハ占領ハ不可能ナリト云ヘリト内話シ羅馬ニ在ル外交代表者中陰ニ陽ニ「エ」側ヲ指嗾スルモノ多キカ如シ

「ムッソリーニ」ハ英ノ如ク名ヲ捨テ、實ヲ取ルノ政策ヲ行ヒ得サル立場ニ在リ東阿ニ於テ實利ヲ占ムルト共ニ海外ニ発展セムトスル國民ノ気勢ニ満足ヲ与ヘ自己ノ權威ヲ増サントスルヲ以テ相当華々シキ手段ヲ講スルノ要モアリ之カ為却テ種々ノ障害ニ遭フモノト察セラル、カ最近ニ至リ形勢容易ナラサルヲ觀取シタルモノカ一方ニハ自ラ植民大臣トナルト共ニ荒武者「デ、ボノ」將軍ヲ東阿總督ニ任シテ飽迄强硬ナル態度ヲ示シ他方前記ノ如ク「エ」公使ヲ懐柔シ且最近帰朝セル駐「エ」伊國公使「ヴィンチ」ヲ急遽「アヂス、アベバ」ニ派シ外交的折衝ヲ計ラシメントス

尚「エ」公使ハ伊國留學生出身ニテ其夫人ハ伊國人又其娘ハ伊國人ニ嫁シ公使館ハ目下巡査探偵等ニ取巻カレ殆ト監禁同様ノ實狀ナルカ我ニ対シ頻リニ將校ノ派遣等ヲ歎願スルモ情ニ於テハ気ノ毒ナルモ大局上不測ノ誤解ヲ惹起スルヲ恐レ一言半句モ彼ニ満足ヲ与フルカ如キ言ヲ吐カス（我陸軍武官カ「エ」側ニ接近シ公使館ニモ出入スル由傳聞シタレハ本使ノ態度ヲ語リ萬一ノ行違ヲ防止シ置ケリ）

三

聯盟理事會前伊國側ハ全力ヲ尽シテ伊「エ」事件ノ上程ヲ防止セント計リタルモノノ如ク現ニ「アルバニア」代理公使ノ如キハ『「アロイジ」ハ少数民族問題等ニテ種々援助ヲ与ヘ呉ル、旨約束シ居リタルニ拘ハラス伊「エ」事件ノ為我方ノ利益ノ如キハ閑却シ去リタル模様ニテ失望セリ』ト内話セリ

羅馬協定成立后欧洲ニ於テハ伊ノ鋒先ヲ阿弗利加ニ向クル方中欧及「バルカン」ニ於ケル平和ヲ確立シ得ル所以ナリト思惟スル者アリ又日支事件及南米「チヤコ」問題ニ失敗シタル聯盟ハ遠隔ノ地ニ起リタル事変ニ対シテハ勉メテ愼重ノ態度ヲ執ラントスル傾アリ

「エ」カ第十一條ニテ事件ヲ提起シタルニ拘ハラス初メハ第一項ナリヤ第二項ナリヤ不明ナリトテ受付ケス次ニ議事日程ニ上サントノ要求無ケレハトテ終ニ有耶無耶ニ葬去ラントシタルニ対シテハ欧洲ノ小國側ニテハ將來ニ悪先例ヲ貽スモノナリトテ憤慨スル向多キ由四、五ノ公使連ヨリ聞知セリ

98　昭和10年2月19日　在伊国杉村大使より広田外務大臣宛

伊国軍二個師団動員後における伊国エチオピア間の動向につき在伊国各国大公使より聞込みについて

機密第六五號　（3月22日接受）

昭和十年二月十九日

在伊　特命全權大使　杉村　陽太郎（印）

外務大臣　廣田　弘毅殿

「エティオピア」問題ニ關シ報告ノ件

「エティオピア」問題ニ關シ別紙ノ通報告スルニ付御査閲相成度尚ホ本公信ノ内容省外ニ漏レサル様特ニ御配慮相仰度シ

（別　紙）

「エティオピア」問題

一

「エティオピア」ニ対シ伊國側ハ和戰両様ノ準備ヲ進メツ、アルカ内外ニ対スル関係相当面倒ナル爲自ラ一般ノ視聴ヲ集メツ、アル次第ナリ

伊國外務当局ハ最近ノ二箇師團動員ヲ以テ全然防禦的性質ヲ有シ禍ヲ未然ニ防カントスル主旨ニ出テタルモノナリト辯解スルモ波蘭大使カ「スキツチ」次官ニ対シ可ナリ突込ミタル説明ヲ求メタルニ対シ徒ニ不徹底ナル理由ヲ繰返スノミニテ最后ニハ「此ノ邊ニテ御勘辨ヲ乞フ」ト歎願シタリトハ同大使ノ直話ナリキ

独逸大使ハ目下ノ處伊軍ノ守備甚タ薄弱ナレハ「エテイオピア」軍ニシテ思切ツテ進出セントセハ案外ニ手柄ヲ立テ得サルニ非ス彼ノ方面ハ海岸ノ地帯ニ比シ却テ奥地ノ方豊沃ナレハ利害ノ点ヨリ打算スルトキ海ニ向ツテ「エ」軍カ突進スルカ如キハアリ得サルヤニ考ヘラル、モ土民軍ノ心理ハ又自ラ異ルモノアレハ何時如何ナルコトヲ仕出來カスカモ計リ知レサルヲ以テ伊國側ニ於テハ實ハ内々心配シ居ル模様ナリト語ル

「デ、ボノ」將軍カ東阿植民地長官トシテ着任后主トシテ伊太利ノ權威ヲ高メンカ為先年大敗ノ汚名ヲ雪カント期スルハ公然ノ秘密ナルカ「ドラモンド」ノ如キハ「國際聯盟擁護ノ見地ヨリ英國ノ國論ハ戰爭防止ノ爲有ラユル方策ヲ講センコトヲ要求シテ已マス」ト云ヒ乍ラ「國境線ハ明瞭

ヲ欠キ且士族ハ中央政府ノ命ニ従ハサル現狀ニテハ實ハ手ノ着ケ樣ナシ」ト稱シ或程度迄伊國側ノ自由行動ヲ認ムルノ外ナシトノ口吻サヘ洩シ本使ヨリ「聯盟モ滿洲事件ノ教訓ニ依リ歐洲外ニ於ケル政治問題ノ處理ニ対シテハ多少實際ニ即スル措置ヲ講セントスルナラン」ト云ヘルニ対シ必スシモ直ニ否定セス佛國參事官「ダンピエール」伯ハ「エティオピア」方面ニ対スル伊ノ自由行動ニ付佛國側ニテ何等カ言質ヲ与ヘ居ル次第ナリヤ」トノ本使ノ質問ニ対シ「斯ル言質ヲ与ヘタルコトナシ」ト强辯シツヽモ佛伊關係ノ現狀ニ照シ佛國側ノ立場極メテ困難ナル旨言外ニ漏セリ

二

二箇師團ヲ動員シタルノミニテハ廣大ナル地域ニ対スル大規模ノ軍事行動ヲ企テ得サルコト明カナルカ伊國政府カ今回ノ措置ニ出テタルハ何時迄モ單ニ土民兵ノミニ委スルヲ欲セス本國ノ兵モ參加セシメサルヘカラストナシタルト又動員ニ依リ其慣用手段タル「デモンストレーシヨン」ヲ行ヒ以テ「エティオピア」側ヲ威服セシメント爲スモノヽ如キモ「ドラモンド」ハ主トシテ財政上ノ見地ヨリ伊國カ本問題ニ深入リシ得サル理由アルヲ語リ又独逸大使ハ「エ」軍ニ対スル伊軍ノ威力ハ主トシテ「タンク」又ハ航空機ニアレハ土地ニ不案内且不馴ナル本國軍隊ヲ何程送リタレハトテ然迄効果ナシ現ニ先年ノ大敗ハ夜襲其他ニ依リ蒙レルモノ多ケレハ同一ノ遣方ニテ進マハ又々同一ノ失敗ヲ繰返スノミナラント語レリ

尚動員ヲ受ケタル伊軍ノ壮丁等ハ一向ニ乘気ニナリ居ラス殊ニ「エ」軍ヨリモ「マラリア」ノ脅威ヲ感シ居ルモノヽ如ク之ニ反シ「エティオピア」側ハ案外平気ヲ装ヒ過日「エ」代理公使ト偶然落會ヒタル時「大丈夫ナリ我等ハ毫モ危惧ノ念ヲ抱カス」ト元気ヨク語リタリ

三

日本側ニ於テ「エ」側ヲ使嗾ストノ風評アリ夫レカ爲大使館前ノ警官ノ數增加セラレ又独逸大使諾威公使ノ如キハ右ノ事實ヲ掲クル独逸ノ新聞紙ヲ示シテ其眞僞ヲ尋ヌル程ナリシカ「エテイオピア」ニ於ケル反白色人種熱ハ案外ニ强ク親日熱ハ實ハ之カ反動トモ見ルヘキモノニシテ而シテ阿弗利加大陸ニ於ケル反白色人種熱ノ中心タル「エ」國ニ対シ此際一撃ヲ加フルハ英佛等ニトリテモ有利ナリトノ考ヘ方カ伊國ノ一部人士間ニ實在スルモノヽ如ク而シテ之「エ」國ノ親日傾向カ誇張的ニ宣傳セラル、所以トモ解セラル白耳義大使ニ対シ「貴國ハ軍事教官ヲ派遣シ居ラル、ニ不拘別段非難ヲ受ケス」ト独逸大使ニ対シ「貴國ヨリ武器彈藥ノ密輸入アリトハ「エ」國代理公使ヨリ聞キタル所ナルカ之ニ対シ何等非難セラル、所ナキハ我方カ無實ノ罪ヲ蒙ムレルト比較シ眞ニ不公平ナリ」ト云ヘルニ対シ両大使共別段辯解セントモセス本使ノ言ヲ聞流シタルコトアリ「エ」側トシテハ出來得ヘクンハ我ヨリ教官及武官(器カ)彈藥ヲ仰カント欲スルモ事實不可能ナル爲白独等ニ依頼セサルヲ得サル事情アルハ云フ迄モナシ

〰〰〰〰〰〰

99 昭和10年7月17日　広田外務大臣より　在伊国杉村大使宛(電報)

ムッソリーニに対する杉村大使談話に関する新聞記者の質問に対し同談話は本省からの訓令によるものではないとの外務省係官の説明について

本　省　7月17日後3時10分発

第三二號

貴地十六日發聯合電報ハ同日伊太利政府ノ公式「コムミユニケ」ヲ以テ杉村大使ハ「ムツソリニ」ニ對シ本國政府ノ訓令ニ基キ日本政府ハ「エチオピヤ」ノ紛爭ニ付何等介入ノ意圖無ク且「エ」國ニ對シ何等政治的關心ヲ有セサル旨ヲ確言セリトノ趣旨ヲ發表セリト傳ヘ内外新聞記者ヨリ質問アリタルニ對シ係官ハ右ニ付貴使ヨリ何等報告ニ接セズ又本件申入方ニ關シ貴使ニ訓令ヲ與ヘタルコト無キ旨ヲ答エ置キタリ爲念

〰〰〰〰〰〰

100 昭和10年7月17日　在伊国杉村大使より　広田外務大臣宛(電報)

ムッソリーニと会見の際日本はエチオピアに対し通商上の利害関係はあるが政治的関心は有せずとの説明について

ローマ　7月17日後発
本　省　7月18日前着

第七八號（至急、極秘）

貴電第三二號ニ關シ（「エチオピヤ」問題ニ關スル杉村大使言明説ノ件）

長岡博士ノ選擧、通商制限ノ問題（貴信通三普通第一八號

ニ依リ数回「スウキッチ」ニ交渉シタルモ埒明カサレハ）

(欄外記入一)等ニ付十六日「ムッソリーニ」ニ面談シタル際貴電合第五二三號末段ニ基キ英發貴大臣宛電報第二三八號ノ經緯ヲ述ヘ尚客年東京出發前御訓示ノ趣旨ニ基キ（客年十二月往信機密第三五三號ノ三參照）我方トシテハ「エチオピア」ニ對シ通商上ニハ大ナル利害ヲ有スルモ政治的ニハ關心ヲ

(欄外記入二)有セス政府ニ於テモ此ノ際干渉ノ意思無カラント述ヘ誤解無キヲ期シタル次第ナリ委細郵報

（欄外記入一）

同一内容ノ言明モ時期ニ依リテ意義ヲ異ニス

（欄外記入二）

關心ト云ハズ野心ト云フ可カリシナリ

～～～～～～～～～～～～～～～～

101 昭和10年7月19日 在伊国杉村大使より広田外務大臣宛（電報）

仏国提示の伊エ紛争具体的解決案にムッソリーニは不満を示すも慎重に妥協を図る意向との観測について

ローマ　7月19日後発

本　省　7月20日前着

第七九號（極秘）

貴電[1]第三三號ニ關シ（伊「エ」紛争ニ關スル件）

一、伊ハ十箇師團（内半數ハ「ファシスト」義勇軍）ト十餘萬ノ勞働者ヲ出シ近代的科學戰ニテ一擧ニ「エチオピア」ヲ打倒セント期スルモ充分ノ準備無ク勢ニ驅ラレテ猪突シタル嫌アリ病兵續出既ニ歸還セル者數千、脫走兵多クシテ監獄ニ收容シ切レス

二、「エ」軍ハ先年ノ戰勝以來伊軍ヲ輕視シ自然ノ天險ニ據ッテ飽迄戰ハントシ且飛行機「タンク」ノ利用モ意ノ如クナラサル由ナレハ伊軍ノ進擊容易ナラス

三、經濟財政ハ唯サヘ入超及歲入不足ニ苦シム際トテ軍需工業ノミハ多忙ナルモ二十及十「リラ」銀貨ノ引上銀行ノ閉鎖等悲觀材料多シ

四、「ムッソリニ」ハ「ファシスト」政權ノ運命ニ關スル一大事ト爲シ表面飽迄戰ハンカニ裝ヒ演說ニ新聞ニ盛ニ氣勢ヲ擧ケ以テ國內ノ結束ヲ計リ且英、佛等ノ干渉ヲ排擊セントスルモ內面戰爭ノ長引カサランコトヲ欲シ平和的解決ニ依リ目的ヲ達セントス

五、[2]英ノ懇請ニ依リ佛ヨリ「イーデン」案ト大同小異ノ具体的解決案ヲ提示シタルモ「ム」ノ一蹴ニ遭ヒ（十六日獨佛大使ト會見後本使ヲ引見シ獨大使カ一九〇六年ノ條約國タル英佛伊間ニ解決ノ途ヲ講スヘキヲ說キ（多クハ聯盟ヲ排シ歐洲問題モ大國ノミニテ解決セントス）タルニ對シ獨ノ出シャバル幕ニアラスト一喝シ佛大使ニハ佛ノ豹變ヲ詰リ頗ル不機嫌ナル時本使ノ話ヲ聞キ大イニ喜ヒ直ニ公表セシメタル由極秘ニ內聞ス）聯盟モ解決ノ成算無ク唯「ム」トシテハ「コルフ」問題ノ苦キ經驗モ有レハ軍事行動ノ開始ヲ九月ノ總會以後ニ延シ空軍ノ襲擊ニテ一應「デモンストレーション」ヲ爲シ置キタル上手際良ク「光榮アル妥協」ヲ遂ケントスルモノノ如ク結局如何ニ纒ムル腹ナリヤトノ本使ノ問ニ對シ具体的問題ニハ觸レサリシモ其ノ語氣ヨリ察スルニ案外 prudent ニテ deadlock ニ陥ルノ愚ヲ避ケントスル樣見受ケラレタリ

委細書面

米ニ轉電土ヲ除ク在歐各大使壽府へ轉送ス

～～～～～～～～～～～～～～～～

102 昭和10年7月19日 広田外務大臣より在伊国杉村大使宛（電報）

伊エ紛争に対する我が方対応振りは内外の関心を集めており新聞記者への対応につき一層注意を要する旨訓令

本　省　7月19日後7時15分発

第三四號

貴電第七八號ニ關シ

伊「エ」紛爭ニ對シテハ民間ハ概シテ「エ」ニ多大ノ同情ヲ有シ浪人有志者ノ會合及「エ」ニ激勵電報打電等ノ事實アリシガ問題ノ性質上甚ダ機微ナル考慮ヲ必要トスル關係アリ當方ニテハ本件ニ對シ成行靜觀ノ態度ヲ取リ新聞等ヲモ右ノ趣旨ヲ以テ誘導シ新聞モ割合平靜ナリシ處六日貴地發聯合ハ伊政府當局カ非公式談話中ニ於テ「エ」政府ハ伊ノ東阿弗利加ニ於ケル經濟的勢力ノ進出ヲ阻止シ日本製品ヲ歡迎スルノ態度ニ出テ居ルカ斯ノ如キハ伊「エ」條約ニ反ス云々ト述ヘタリト報道シ又十三日貴地發聯合ハ伊國政府カ米國國務長官ノ不戰條約精神强調ニ對スル非公式反駁聲明中ニ於テ日本ハ支那ノ領土ノ大部分ヲ占據セルニモ

拘ラス不戰條約ハ別段死滅セスト報道シ更ニ往電第三二號十六日貴使ト「ムツソリーニ」トノ會見ニ關スル伊政府「コムミユニケ」ノ報道アリタル爲帝國政府ト貴使トノ間ノ扞格アリタリト誇張スルモノアリ更ニ十七日貴地發「ハースト」系電報及同日貴地發聯合ハ貴使カ右「コムミユニケ」ヲ確認シタル旨報道セル爲更ニ深甚ナル注意ヲ惹クニ至リタル處本問題ハ内外關係上頗ル微妙ナル關係ヲ有スルカ外國新聞通信員中ニハ本問題ヲ捉ヘテ種々策動スル者モアルヤニ認メラルルニ付御如才ナキ次第ナルモ新聞記者ヘノ應酬ハ此ノ上トモ御注意相成度シ

尚右「コムミユニケ」ハ貴使承認ノ上發表セラレタリヤ内容ト共ニ參考迄電報アリタシ

〰〰〰〰〰〰〰〰

103 昭和10年7月19日 在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛（電報）

伊エ紛争に対する我が方対応についての質問には我が方はエチオピアに公使館を設置するも政治的に干渉する意志は有せずと応酬する旨報告

ローマ　7月19日後発
本　省　7月20日前着

第八〇號（極秘）

貴電第三四號ニ關シ

其ノ後各方面ヨリ問合セアルニ付經濟上我方ハ「エチオピア」ニ重大ナル利害ヲ有スレハ本使ニ於テモ關税又ハ鐵道賃銀ニ依リ本邦品ニ不公正ナル差別的待遇ヲ與フヘカラサル旨再三伊當局ニ注意シ今後モ充分監視スル次第ナルカ政治上ハ近ク公使館ヲ新設シテ外交關係ノ緊密ヲ計ラントスルモ我立場ハ㈠「エ」ニ於ケル勢力範圍ヲ協定セル英佛（一九〇六年英佛伊協約、一九二五年「チエムバーレン」「ムツソリーニ」約定）㈡聯盟國（近ク「ム」ヲ來訪セントスル「リトビノフ」）㈢不戰條約ノ總元締ヲ以テ任スル米トハ自ラ異リ從テ此ノ際英佛米サヘモ敢テセサル干渉ト謂フカ如キ重大ナル措置ヲ執ルコト想像シ得スト應酬シツツアリ御參考迄

〰〰〰〰〰〰〰〰

104 昭和10年7月20日 広田外務大臣より 在伊国杉村大使宛（電報）

広田大臣より在本邦伊国大使へ伊エ紛争に対し静観の立場を維持するも事態の推移によっては意見を述べる可能性もあるとの言明について

本　省　7月20日後4時15分発

第三五號

貴電第七八號ニ關シ

十九日在京伊國大使本大臣ヲ來訪シ何等本國政府ノ訓令ヲ受ケタル次第ニハアラザルモト前述シ近日新聞紙上ニ於テ杉村大使ノ言辭ニ關シ非難行ハレ居ル處同大使ノ申入ハ日本政府ノ意嚮ト合致スルモノナリヤ然ラストセハ帝國政府ノ眞意ヲ承知シ度シト述ベタルニ付本大臣ハ杉村大使ニ對スル新聞ノ非難ハ訓令ニ基ケルヤ否ヤヲ問題ニシ居ルモノナリ日本ハ遠カラス「エチオピア」ニ公使館ヲ開設セントシ居ル處右ハ主ニ通商上ノ必要ニ基クモノニシテ日本ノ同國ニ對スル關心ハ主トシテ經濟的ニシテ新ニ同國ト政治的關係ヲ付ケントスルモノニ非ス此ノ意味ノ一般的訓令ハ杉村大使モ赴任ニ際シ携行シタルガ今次ノ伊「エ」紛爭ニ付テハ兩當事國ノ意見立場等モ分明セズ又紛爭ノ實情乃至其ノ發展如何モ判明セザル際ニ日本政府トシテ進テ意見ヲ述ブベキ筋合ニ非ス日本トシテハ現在ハ成行靜觀ノ立場ニ於テ事態ノ進展ヲ注視セントスルモノナリ伊「エ」兩國共ニ日本ノ友邦ナレバ現在ノ紛爭カ速ニ圓滿解決センコトヲ希望スルモ今ノ所何等意見ヲ云々スル立場ニ在ラズト述ベタルニ同大使ハ自分ガ貴大臣ノ地位ニ在ラバ伊「エ」紛爭ハ西洋ニ在ル友邦間ノ衝突事件トシテ關與セスト云フベシト述ベタルモ本大臣ハ將來ノコトハ何トモ分ラズ日本ハ滿洲事變ニ際シ隨分歐米諸國ヨリ兎ヤ角云ハレタリ將來ノ事態ノ發展如何ニ依リテハ日本モ意見ヲ述ブルガ如キコトハアルヤモ知レズト應酬シ置キタルガ同大使ハ本國政府ニ電報スベシト云ヘリ

尚六月二十日伊大使來訪重光次官ニ對シ日本ハ「エ」國ニ武器ノ供給ヲナシツツアリトノ風評歐洲ニ於テ行ハレ居ルモ自分ハ之ヲ信セズトノコトナリシニ付次官ハ日本ハ素ヨリ「エ」國ニ武器供給ノ權利アリ貴國ガ支那ニ武器ヲ供給シタルト同樣ナリ但シ供給ノ事實ハ知ラズト答ヘタルコトアリ

在歐各大使壽府ヘ轉電アリタシ

〰〰〰〰〰〰〰〰

105　昭和10年7月20日　在伊国杉村大使より広田外務大臣宛（電報）

報道されたムッソリーニ・杉村大使会談のコミュニケに関する誤解箇所について

別　電　七月二十日発在伊国杉村大使より広田外務大臣宛第八二号
右コミュニケ

ローマ　7月20日後発
本　省　7月20日後着

第八一號（極秘）

貴電第三四號末段ニ關シ

「コムミユニケ」ノ全文別電第八二號ノ如シ

右ハ「ムツソリーニ」ヨリ今日ノ話ヲ一般ニ徹底スル爲公表セント申出テ本使モ當國ノ輿論兎角我ヲ誤解シ面白カラサレハ之ニ承諾ヲ與ヘ置キタリ

一、「政府ノ訓令」云々ハ本使カ貴電合第五二三號ニ關シ政府ノ命ニ依リ否認スト云ヘルト昨年十二月十三日ノ會見以來「エ」ニ對スル帝國政府ノ態度ハ大臣ノ訓示ニ基キ言明スル次第ナリト述ヘタルニ「ム」ニ於テ今回特ニ訓令ニ接シタルカニ解シタルモノト察セラル

二、當地聯合通信員カ故意カ過失カ右「政治上ノ利害」云々ヲ單ニ It has no interest トナセル結果「本使カ經濟上ノ利害」迄モ有セスト云ヘルカニ解セラレタルカト存ス同通信員ノ通信振ニ付テハ別ニ申進ス

（別　電）

ローマ　7月20日前発
本　省　7月20日後着

第八二號

「ム」首相ハ日本大使ヲ引見セリ同大使ハ「ム」首相ニ對シ日本ハ伊太利「エ」紛争ニ干渉スルノ意無ク且「エ」國ニ於テ政治上ノ利害關係ヲ有セサル旨政府ノ訓令ニ依リ正式ニ言明セリ

〰〰〰〰〰

106　昭和10年7月22日　広田外務大臣より在伊国杉村大使宛（電報）

ムッソリーニ・杉村大使会談に関するコミュニケにつきUP通信等の報道振り真偽につき照会

本　省　7月22日後8時発

第三九號

情報部長ヨリ

今次ノ伊「エ」紛争ニ關シ日本諸新聞カ盛ニ書立テシハ十六日貴地發聯合ニヨリ傳ヘラレシ所謂伊國政府ノ「コンミユニケ」ニ端ヲ發シ更ニ當方ニ於テ右會見ニ付貴使ニ何等訓令ヲ與ヘスト言明セルニ對シ十七日貴地發「ハースト」及十九日貴地發U・Pカ「ムツソリーニ」トノ會談ハ訓令ニ基クモノト貴使カ言明セリト傳ヘ更ニ十八日ノU・Pハ貴使ノ談トシテ右ハ政府ノ訓令ニ依ルモノニテ情報部ノ役人ハ同訓令ヲ知ラサルモノナル可シト傳ヘラレシ爲刺激セラレシモノナルカ更ニ廿二日貴地發U・Pハ貴使カ同社特派員トノ會見ニ於テ廣田外相カ貴使ト「ム」ノ會見ニ對シ訓令ヲ與ヘシコトナシト言明シタル旨ノ報道ハ誤レリ自分ハ「ム」ニ對スル言明ヲ變更スル必要ヲ認メス自分ハ訓令ニ依リ行動セルノミニシテ伊政府ノ「コンミユニケ」ハ正ニ自分ノ言明セシ通ナリ云々ト述ヘタル旨傳ヘタルモ電通ニテハ此通信ヲ握潰セル由ナリ尚右經緯ヲ考察スルニU・P又ハ「ハースト」等外國通信カ本問題ヲ誇張シ傳ヘ日本ノ立場ヲ紛糾セシメントセシ氣味アルニ付テハ當方輿論指導ノ參考ノ爲之等通信カ果シテ貴使ノ言通リ傳ヘ居ルヤ否ヤ回電アリ度シ

〰〰〰〰〰

107　昭和10年7月23日　在伊国杉村大使より広田外務大臣宛（電報）

UP通信による報道は外務本省と在伊国日本大使との間に行き違いがあるとの印象を与えるよう仕向けており注意を要する旨回答

ローマ　7月23日前発
本　省　7月23日後着

第八七號（極秘）

貴電[1]第三九號ニ關シ

情報部長ニ左ノ通

一、大臣來電第三四號末段ノ御注意モアリ殊ニ今回ノ出來事ニ乘シ日伊雙方ヲ惱マサントスル米國記者等カ盛ニ罠ヲ掛クル（例ヘハ廿二日U、Pノ記者ハ伊國新聞記者ノ反日的論調ニ對シ帝國政府ハ何日抗議ヲ提出スルヤト問ヘル如

シ）ニ對シテハ特ニ警戒ノ要ヲ認メタル次第ナルカ彼等ハ「エ」國ニ對スル我立場（往電第八〇號）ノ説明ヨリモ「ムツソリーニ」ヘノ本使ノ申入ハ訓令ニ依レルカ否カ又本使カ右申入ヲ取消スヤ否ヤノ二點ニ興味ヲ有スルモノノ如ク前者ニ對シテハ(イ)貴電合第五二三號ニ必要ノ場合ニハ否認スヘシトアリタレハ御訓令ニ依ル旨ヲ前置シテ「ム」ニ右否認ノ申入ヲ爲シ而シテ(ロ)徹底ヲ期スル爲昨年出發前ノ御訓示ニ基キ帝國政府ノ一般的態度ニ付昨年十二月十三日ト同一ノ申入ヲ爲セルカ(イ)ハ情報部ノ所管ナルヘキモ(ロ)ハ或ハ然ラサルヘキカト思惟シ

[2]右推測ヲ申聞ケタルコトアリ又後者ニ付テハ本使ノ申入ノ後ニ外相ヨリ伊國大使ニ言明ノ次第モアリタレハ伊國側ニ於テ最近ノ我態度ヲ充分了解シタルコトト考フト應酬シ居レリ

三、本使ノ行動カ一々御訓令ニ依ルヘキハ申ス迄モ無ク從テ苟モ外間ニ對シ本省トノ間ニ行違アルカ如キ感ヲ懷カシメサル樣細心ノ注意ヲ拂ヒ居ル次第ナルカ貴電ニアルカ如キU、Pノ口調ノ如キハ單ナル事實ノ報道ニ當リ强ヒテ右行違アルカ如キ感ヲ懷カシムル樣仕向ケ居ルモノト解スルノ外無シ

108

昭和10年7月24日　在仏国佐藤大使より広田外務大臣宛（電報）

満州事変時に強硬な態度を示した諸国の連盟理事会における伊エ紛争への対応は興味深いが我が方から伊国への非難は避けるべき旨意見具申

パリ　7月24日後発
本　省　7月25日前着

第二五〇號

[1]「エチオピア」問題ニ關スル佛國政府ノ態度ハ從來鮮明ヲ缺キ居リタル處數日來漸ク具体化シ來レルモノノ如ク（往電第二四五號「タン」社説參照）矢張リ七月二十五日以後成ル可ク速ニ理事會ヲ招集ノ要ヲ認ムルニ至レリト見受ケラレ二十三日發行ノ「タン」ニハ愈八月一日招集セラルヘシト傳ヘラル右ハ畢竟英國政府カ輿論ヲ無視シ得スシテ理事會招集ニ決シタルト佛國政府カ依然聯盟中心主義ニテ「エ」問題ノ爲聯盟ノ根本主義ヲ犧牲ト爲シ得サルニ依ルト觀察セラル

理事會ノ動向如何ハ豫知シ難キモ全會一致ノ決議成立困難ヲ見越シ規約十五條七項ノ援用ニ依リ伊國ノ直接行動ヲ合法化セントスルカ如キコトアラハ（特情第三五號「エコー、ド、パリ」論説）三百代言式ノ解釋ニシテ聯盟ノ威信却テ地ニ墜ツヘク（佛外務省トシテハ聯盟ニテ何トカ伊國ノ面子ヲ立テントスル考ヲ有シ居ルモ他國ハ之ニ必スシモ同意セサル由聞込メリ）左リトテ伊ノ脱退ハ聯盟ノ爲ニハ大脅威タルヘク理事會ハ此ノ矛盾ヲ如何ニ切拔クヘキヤ將ニ歐洲政治家ノ苦惱スル所ナリ今回ハ或ハ五人目ノ仲裁委員ヲ任命スルニ落着キ得ヘシトスルモ八月末ニハ再ヒ同一難問ニ逢着セサルヲ得ス

[2]日支事件中我ニ對シ强硬ナル態度ヲ執リタル各國ノ今次理事會ニ於ケル言論ハ我ニトリ頗ル興味アル問題ニシテ萬一伊ニ憚リ態度ヲ曖昧ニスルカ如キコトアラハ我ハ其ノ矛盾ヲ指摘シ我ヲシテ脱退ヲ餘儀無クセシメタル滿洲問題關係決議ノ影ヲ薄カラシメ日滿兩國ノ地位ヲ鞏固ナラシムル位ノコトハ出來得ルヤモ知レス但シ此ノ爲ニハ國内輿論ヲ適當ニ指導スル要アリ手際良ク形勢ノ推移ヲ利用スルヲ要スト思考ス

滿洲問題ニテ聯盟ト爭ヒタル日本トシテハ之ト「エチオピア」問題トノ内情ノ相違ハアリトスルモ我ヨリ伊ノ行動ヲ非議スルハ當ヲ得サルモノノ如ク弱者ニ對スル感情ノ問題ハ別トシ餘リ深刻ニ伊ヲ非難セハ我自ラ日支事件中ノ行動ヲ否認スルノ珍現象ヲ招致スヘキノミナラス後日支那ニ乘セラルル素因ヲ作ルコトトナルヘシ

在歐各大使（土ヲ除ク）壽府ヘ暗送セリ

109

昭和10年7月27日　在伊国杉村大使より広田外務大臣宛（電報）

伊エ紛争を機に対日牽制を目論むリトヴィノフの活動および経済的に伊国を圧迫せんとする英国の動向等につき在伊国独国大使より聞込みについて

ローマ　7月27日後発
本　省　7月28日前着

第九二號（極秘）

[1]二十六日獨逸大使ノ「エチオピア」紛爭ニ關スル内話左ノ如シ

一、「リトヴィノフ」ハ聯盟加入ノ利益ハ主トシテ日獨ニ對

シテ聯盟ヲ利用シ得ルニアリト爲シ殊ニ制裁問題ニ興味ヲ有シ側近ニ對シ今回ノ伊「エ」紛爭コソ聯盟ノ試金石ナリト言ヘル程ニテ飽迄伊ヲ押ヘントノ決心ニテ乘出サントシタルモ日伊關係ノ惡化ヲ見テ對日工作上伊ノ援助ヲ期待シ得ヘキヲ思ヒ（佛ハ之ヲ肯セサレハ）英カ今回理事會ニ於テ伊「エ」紛爭ノ全部ヲ討議セントスルニ對シ初ハ贊成シタルモ今ヤ躊躇シ始メタリトノコトナリ

二、英カ伊「エ」兩國ニ武器ノ輸出ヲ許可セス且「エ」ニ隣接スル英領土ノ通過ニ依ル「エ」政府ヘノ武器供給ノミヲ許可シタルハ斯シテ伊ニ强壓ヲ加ヘ聯盟ノ行動及英佛協力ノ外交ニ效果アラシメントスルカ爲ナリ

鐵[2]其ノ他軍用器材ヲ缺ク伊ハ之ニ依リ尠カラサル壓迫ヲ受クルコト明カナリ（本使ヨリ「ドラモンド」カ先日伊ハ英ヨリ莫大ナル軍用器材ヲ輸入シ乍ラ代價ヲ支拂ハスト洩ラセル旨述ヘタルニ前記ノ措置ハ同時ニ賣掛代金支拂强要ノ手段タルヘキモ英ハ伊ニ對シ全面的ニ支拂ヲ要求シ伊ヲ財力的ニ壓迫セントスル腹ナリト言ヘリ）

三、伊ハ國境問題ヲ除外シタル後和協委員會ヲシテ「ウワル、ウワル」事件ノ「アグレッサー」ヲ決定セシメントスルモ右ハ「アグレッサー」決定ニ必要ナル他國ノ領土ヲ侵シタルヤ否ヤノ點ヲ沒却シ問題ヲ骨拔トスルモノニテ一般ノ通念ニ反ス

四、「ムソリーニ」ハ已ムヲ得ス中途半端ノ妥協ヲ爲スニ至リテモ其ノ威力ヲ以テ國論ヲ抑ヘ得ヘキモ（國民ハ內心戰爭ヲ厭フヲ以テ內心之ヲ歡迎スヘシ）斯テハ「ム」ノ內外ニ對スル權威及面目丸潰トナレハ目下頗ル苦悶シツツアリ

在歐各大使、壽府ヘ暗送セリ

110

昭和10年8月1日　在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛（電報）

連盟理事会開催を控え伊エ紛争に対する英仏等主要国の対応につき観測

ジュネーブ　8月1日前発
本　省　8月1日後着

第一一〇號

伊[1]「エ」紛爭問題ノ解決ハ專ラ英、佛、伊等主要各國間ノ政治交渉ノ成行如何ニ懸カル爲當地ニテハ情報入手不可能

ナリシカ理事會開催差迫レル折柄事務局方面ノ觀測ヲ綜合スルニ大体左ノ如シ

㈠佛國ハ戰後聯盟ニ依リ獨逸ニ對シ壓迫ヲ加ヘ來レルモ獨逸ハ益々强大トナリ今ヤ伊國トノ提携ニ依ル外之ニ對抗ノ途ナキニ至レル故今度ハ聯盟主義ヨリ親伊主義ニ轉向シ居レリ之ニ反シ英國ハ阿弗利加植民地政策上伊國ノ同地方進出ヲ內心喜ハス且ツ英帝國諸聯邦トノ關係上依然トシテ聯盟中心ノ大陸政策ニ賴ラントスル立場ニアリ其ノ結果佛國ハ伊國ノ感情ヲ顧慮シ理事會ノ議論ヲ伊「エ」仲裁委員ノ權限等ニ關スル手續問題ニ局限シ遷延策ニ出ツルニ反シ英國ハ規約及不戰條約等ヲ尊重シ伊「エ」紛爭ノ實質的審査ヲ希望スル傾向アリ

㈡仲裁委員ノ權限ニ關シ全般的國境問題ヲ留保シ「ウワルウワル」ニ局限スルコトニテ伊國ニ滿足ヲ與ヘ五人目ノ中立國委員ヲ選任スルコトニテ「エ」ヲ納得セシメントスル彌縫策（佛國案）ハ仲裁手續繫屬中伊國ハ當該地方ノ惡氣候ニ依ル病兵續出、國內輿論ノ不滿、財政難ノ增大等ニ直面スヘク「ム」首相モ名譽アル妥協ヲ求ムルニ至リ戰爭決行ヲ斷念スヘキコトヲ豫期シ得ヘシトノ理由ニテ他ニ名案ナキ限リ贊成者多キ模樣ナリ

㈢[2]乍併右ノ遷延策ニ依ルモ結局八月末ノ理事會及次回總會迄ニ仲裁ニ依リ事件ノ解決ハ到底之ヲ期待シ得ストセハ此ノ際斷然實質的審査ニ入リ根本的解決ヲ圖ルコトカ聯盟ノ使命ニ忠ナルヘシトノ思想（英國案）ニモ相當ノ共鳴者アルカ如シ尤モ理論上ヨリ言ヘハ今回ノ伊國ノ要求ハ日本ノ「滿洲」ニ對スル場合ト異リ條約上及法律上ノ論據ニ乏シク之ヲ是認スルカ如キハ聯盟ノ自滅ニ外ナラサルヲ以テ諸小國ノ贊成セサル所ナルモ左リトテ日獨兩國脫退後ノ今日伊國ニ脫退サレテハ聯盟ハ全ク無力無用ノモノトナルヘク是亦諸小國ノ恐ルル所ナリ又伊國カ對聯盟外交ニ失敗シ內紛ヲ生シ若ハ對「エ」戰爭ニ失敗シテ國力疲弊セハ「ダニューブ」地方各國間ノ勢力均衡上ニ大影響ヲ及ホシ中歐ノ平和ヲ破ル惧アルコトヲモ考慮シ同方面ニ關係アル諸小國ハ寧ロ「エ」ヲ多少犧姓(牲カ)ニシテモ規約尊重ノ口實スラ發見セハ成ルヘク伊國側ニ滿足ヲ與ヘ無事ヲ圖ルヲ得策トシテ考フルノ傾向アルカ如シ

㈣事情右ノ通リ複雜混沌タルヲ以テ「エデン」、「ラヴアール」、「リトヴイノフ」、「アロイジ」等主要理事何レモ

三十一日朝迄ニ來壽シ目下内協議繼續中ノ處英國代表ハ伊國ニ對シ相當ノ强硬態度ヲ持シ居レリトノ風説アルモ形勢未詳ナリ

在歐各大使ヘ郵送セリ

111

昭和10年8月6日　広田外務大臣より在伊国杉村大使宛（電報）

我が方は伊エ紛争両当事国と友好関係にあるため片方のみを援助することは困難な事情を在伊国エチオピア公使に説明方訓令

本　省　8月6日後1時30分発

第四四號（極秘）

貴電第九六號ニ關シ

本邦ノ輿論ハ一般ニ「エ」國ニ對シ多大ノ同情ヲ有スル處帝國政府トシテハ伊「エ」兩國ト修好關係ニアル以上紛爭ガ速ニ圓滿解決センコトヲ希望スルモノニシテ武器輸出等ニ依ル對「エ」援助ハ事實上ノ困難尠ラス又紛爭國雙方ニ友好關係ヲ有スル帝國トシテハ此ノ際對「エ」援助聲明ノ如キ一方ニ偏スル行動ニ出デ難ク況ヤ兵力行使ニ依ル援助ノ如キハ何等考慮ノ餘地ナシ猶又若シ此ノ種話合ナリトモ外間ニ洩ルヽニ於テハ反テ「エ」國ノ爲ニ面白カラザル結果ヲ招來スベキヲ憂フル次第ナリ

就テハ右ノ趣旨ヲ目立タザル方法ニ依リ可然在貴地「エ」國公使ニ通ジ置カレタシ

112

昭和10年8月7日　在伊国杉村大使より広田外務大臣宛（電報）

在伊国エチオピア公使より同国のおかれた苦況につき説明の上我が方からの援助に関する正式声明方懇願について

ローマ　8月7日発
本　省　8月30日着

郵第二號（極秘）

八月二日午前「エチオピア」國公使來訪此ノ際是非共日本ノ援助ヲ請ヒ度シトテ左ノ如ク語レリ

一、「エ」ハ聯盟ノ無力ナルヲ知レルヲ以テ之ニ依ル解決ヲ期待セス英ノ支持ヲ感謝スルモ其ノ底意ハ「タナ」湖一帶ノ勢力範圍ヲ伊ニ奪ハルルヲ防止セントスルニアレハ

内心信頼シ居ラス佛ハ内々「エ」ニ好意ヲ有スルモ公然之ヲ支持シ得サル地位ニアレハ何等期待セス獨リ公正ノ立場ニアル强國日本ノ有力ナル援助ヲ仰キ度特ニ訪問セル次第ナリ

二、「エ」軍ハ勇敢ナルモ規律無シ飛行機ヲ恐レサルモ伊軍カ大砲ヲ以テ遠距離ヨリ攻擊シ階段的ニ漸次地歩ヲ固メテ侵入スルニ對シテハ施スヘキ策無ク幾許モ無ク國ノ全部カ占領セラルルニ至ルヤヲ惧ル

又伊軍カ「エ」ニ侵入スルニ際シテハ占領地ノ土民ヲ伊軍ノ前線ニ立タシメ（皇帝ノ威力ハ「アヂス、アベバ」一帶ニ及フノミナルヲ以テ邊境ノ土民ハ容易ニ投ス）同族相擊ツノ悲劇ヲ演セシムルヲ憂フ

三、[2] 伊ハ軍用器材充實シ且財政不如意ナルモ最後ノ手段トシテ富豪ヨリ軍資金ヲ强制徴收スルノ手段ヲ留保シ居レハ優ニ一年間ノ交戰ニ耐ヘ得ヘシ歐洲大戰ト異リ規模小ナル植民地戰爭ナレハ伊カ國民經濟ニ根本的影響ヲ與フルコト無クシテ此ノ戰ヲ持續シ得ルコト必然ニテ此ノ點「エ」トシテハ大ナル脅威ヲ感ス

四、既ニ一箇月以前ヨリ「ジブチ」、「アジス、アベバ」鐵道ニ依ル武器ノ輸入ハ停止シ僅ニ英ノ好意ニ依リ「ケンヤ」「スーダン」方面ヨリ駱駝ニ依リ幾分ノ輸入アルノミナレハ日本ヨリノ武器輸入ハ實際上困難ナルニ付此ノ際潛水艦ヲ出動シテ東阿ニ至ル伊國軍用船ヲ擊沈スルコト叶フ間敷キヤ若シ右カ不可能ナラハ日本ノ義俠心ヲ表明スル爲政府ニ於テ公然「エ」ヲ援助スル旨ノ正式聲明ニテモ發セラルルニ於テハ「エ」軍ノ士氣大イニ揚リ飽迄防戰スヘシ個人的友人トシテ腹藏無キ貴見伺ヒ度シ

右ニ對シ本使ハ問題カ重大且機微ニ亘ルヲ以テ今直ニ何等確言スルコト能ハサル旨ヲ答ヘタルニ「エ」公使ハ兎ニ角何等カノ形式ニテ援助ヲ願ハレ間敷キヤト重ネテ懇請シ感極ツテ流涕セリ

五、[3] 「エ」ハ自國ノ獨立カ害セラルルカ如キ解決方式ニ對シテハ絶對ニ承認ヲ與ヘス但シ利權ノ讓渡ニ付テハ大イニ考慮スルモ妨無シ鐵道敷設ハ「ジブチ、アベバ」ト同樣ノ條件ノ下ニ又鑛山採掘ハ政府ニアラサル會社ノ經營ヲ條件トシテナラハ許可スヘク（何レモ政府ノ直營トスルコトニハ絶對反對ナリ）移民モ亦伊國ノミニアラスシテ列國同一ノ條件ノ下ニ列國ニ之ヲ許可スルモ差支無キ考

ナリ
六、伊「エ」紛争此ノ方伊國官憲ノ壓迫甚タシク文書ノ如キハ自分ノ子供ヲ「クーリエ」トシテ國境迄派遣シ居レリ
先日ノ「ファシスト」示威運動ノ際ハ伊國政府ハ憲兵二千人ヲ以テ「エ」國公使館ヲ護衛セシメタリ
英大使ハ特別ノ好意ヲ示シ暗ニ援助シ呉レリ金ノ引出シモ伊國側ニ邪魔サレ意ノ如クナラサリシ時ハ英大使ニ於テ立替ヲ爲シ呉レタルコトアリ
英米新聞記者中伊ニ反感ヲ懐キ自分ヲ「エンカレーヂ」シ附纒フ者多キモ之ニ利用セラレルコト無キ様充分注意シ居レリ
七、[4]「エ」國ニ日本公使館ヲ成ルヘク早目ニ設置シテ貰ヒ度シ今回ノ紛争ノ場合ニ於テモ「アヂス、アベバ」ニ日本公使館ナキヲ以テ援助懇請方困難ナルハ遺憾ナリ日本公使館トシテ自分ノ邸宅ヲ提供スルモ差支ナシ
八、昨日皇帝陛下ノ御宸翰ニ接シ日英米白埃及ノ在伊大公使ニ面會シ夫々援助ヲ懇請スヘシトノ訓令アリタルカ「エ」トシテハ前述ノ如ク英ニモ内心信頼セス米國大使ハ目下留守中ニテモアリ白國及埃及ハ共ニ無力ナレハ訪問スルノ要ナク先ツ貴使ヲ訪問シタル次第ナリ
同公使ハ文書ヲ直接皇帝ニ送付シ政府ニ送付セサル旨ヲ語リタルカ右ハ内部ノ不統一ヲ示スモノニシテ相當複雑ナル事情アルコトヲ看取セシメタリ
英、佛、獨、白ヘ暗送セリ

〰〰〰〰〰〰〰〰

113　昭和10年8月7日　広田外務大臣より　在英国藤井臨時代理大使宛（電報）

対エチオピア武器輸出問題に関する我が方意向につき在京英国大使館からの照会に対し武器援助の事実なしとの回答について

本　省　8月7日後1時発

第一三七號

八月二日在京英國大使館ヨリ本國政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ「エチオピア」ニ對スル武器輸出問題ニ對スル帝國政府ノ意嚮承知シ度キ旨申出アリタルニ依リ六日歐亞局長ヨリ仝館書記官ニ左ノ趣旨ヲ回答セシメ置キタリ
「帝國政府ノ知レル限リ今日迄日本ヨリ兩當事國ニ對シ武器ノ輸出セラレタル事實ナク又現ニ斯ル計畫ナキヲ以テ帝國政府ハ未ダ右兩當事國ニ對スル武器輸出問題ニ付態度ヲ決定スルノ必要ニ迫ラレ居ラザルト共ニ本件紛争ガ如何ナル經過ヲトルベキヤモ見透付キ兼ヌル此際決定的態度ヲ表明スルノ時機ニ非ズト思考ス」
尚先方ノ問ヒニ對シ同局長ヨリ實際問題トシテハ日本ガ「エ」國ニ武器ヲ輸出セントスルモ英佛伊三國何レカノ領土ヲ通過セザルベカラザルヲ以テ寧ロ本問題ハ英佛兩國ノ態度決定ヲ先決條件トスル旨ヲ述フルト共ニ英國ノ態度ニ付質ネタルニ對シ仝書記官ハ情報入手次第御知ラセスベシト述ベ居タル趣ナリ
伊佛ニ轉電シ獨白ニ暗送アリタシ

〰〰〰〰〰〰〰〰

114　昭和10年8月21日　在伊国杉村大使より　広田外務大臣宛（電報）

チアノ宣伝大臣の我が方への対応改善を図るは困難につき伊国の対日世論改善にはムッソリーニ首相に直接働きかける方針について

ローマ　8月21日発
本　省　9月12日着

郵第三號（極秘）

「[1]ムッソリーニ」ハ多年記者トシテ新聞ノ活動ニ經驗ト興味トヲ有シ伊國民ヲ率ヒルニハ其ノ國民性ニ顧ミ宣傳ノ効果大ナルヲ知ルヲ以テ國内ノ統制及對外政策上特ニ宣傳ニ意ヲ用ヒ女婿「チアノ」伯ヲ宣傳大臣（昨年來宣傳部長タリシカ本年七月ヨリ右部ヲ昇格シテ省ト爲シ宣傳大臣トナル）ト爲シ屢「ポポロ、デイタリヤ」紙上ニ自筆ノ論文ヲ掲ケ且「ジョルナーレ、デイタリヤ」紙主筆「ガイダ」ノ論説ハ「ム」ノ意ヲ受ケテ起草スルモノ多シト傳ヘラルル程ニテ伊國諸新聞ノ論調ハ常ニ「ファシスト」政府ノ政策ヲ忠實ニ傳ヘ多少ノ懸隔ト雖之ヲ許サス又外國新聞記者ニ對シテハ「ム」自身進ンテ好遇ヲ與ヘル反面外國新聞紙ニシテ自己ノ政策遂行ニ好マシカラスト認メラルルモノハ直ニ輸入ヲ禁止スルノミナラス外國記者又ハ通信員ニシテ伊國ニ不利ナル通信ヲ爲セルモノハ容赦無ク排撃シ現ニ英米ノ記者又ハ通信員ニシテ伊「エ」紛争ニ關シ反伊的通信ヲ爲セルカ爲「ファシスト」黨員ヨリ袋叩ニサレシ者アリ
故[2]ニ外國諸新聞紙中伊國側ニ買收セラレテ極端ナル親伊的色彩ヲ帶フルモノアルト反對ニ英米ノ記者又ハ通信員中ニ

ハ「フアシスト」黨員ノ横暴ヲ憎ムノ餘リ平和論ノ蔭ニ隱レテ伊ニ對スル列國ノ反感ヲ挑發スルモノアリ

將又我ニ對シテハ「チアノ」伯カ先年來張學良及宋子文等ト結ヒテ伊ノ對支進出ヲ焦ル爲宣傳省ノ方針ハ自ラ親支排日的トナリ又蘇聯邦トノ間ニモ我ニ對スル關係上特殊ノ了解アルモノノ如ク從テ日支又ハ日蘇間ニ問題起ル度毎ニ伊國諸新聞ハ屢我ニ不利ナル情報ヲ流布シ之ニ加フルニ伊ノ生糸業等カ我通商ノ進出ニ依リ世界到ル所ニ於テ痛手ヲ蒙レル爲一般ノ對日感情ハ決シテ宜シカラス況ンヤ各産業組合カ頻リニ救濟ヲ歎願スル爲「ム」モ大イニ動カサレ「スマッツ」、「ロイド、ジョージ」等ト共ニ黄禍論ヲ唱道シ我進出ニ對シ歐米ノ覺醒ト結束ヲ促スヲ以テ昨年十一月以來之カ對策ニ付テハ種々苦心シタルカ聯盟時代本使ノ同僚タリシ「パルルッチ」侯(?)及部下タリシ「ロドロ」公使ノ如キハ「チアノ」伯ヲ懷柔シテ其ノ反日的態度ヲ和ラクヘキコトヲ勸メタルモ「チアノ」ノ官房長タル本使ノ舊部下「クロラ」ハ「チ」ト支那側トノ腐レ縁ヲ說キ斯ク深入シタル以上「チ」ト雖面目上今更態度ヲ豹變スルコト困難ナルヘケレハ寧ロ「ム」自身ヲ動カスニ如クハナシトノ意見ニテ右ハ本邦大使ニシテ親日家タル「マイオニ」上院議員及本使ト舊知ノ間柄ナル駐英、米、佛各國伊國大使モ同意見ナレハ此ノ方針ニテ微力ヲ致シ居ル次第ナリ

尙[3]英國大使ノ如キハ伊ニハ輿論無シ「ム」及其ノ取卷二、三人ノ意見卽チ國論ナレハ常ニ此ノ中心ヲ逸スヘカラスト說キ佛國大使ハ「スウキッチ」次官モ「アロイジ」男モ「ム」ヲ憚リ唯「チアノ」ノ鼻息ヲ伺フニ急ナレハ心許ナシト嘆息シ獨逸大使ハ伊ノ輿論ハ天降リナレハ大衆ノ動キノ如ク緩カナラス而シテ之レ其ノ豹變常ナキ所以ニシテ必スシモ「マキアベリスト」的ノ國民性ノミニ依ルニアラスト內話セルコトアリ

伊ニ對シテハ所謂「沈默ノ睨」ハ效果無ク事大小トナク絕エス我ヨリ進ンテ働キ掛クル要アリ情報關係ニ於テ特ニ然リ英、佛、獨等ノ大使館ハ何レモ情報部ヲ有スルモ情報關係ノ問題ハ其ノ都度大使自身「ム」又ハ「スウキッチ」ヲ相手ニ交渉ス

事情右ノ如ク伊國ニ於ケル情報事務ハ他ノ諸國ニ於ケルト趣ヲ異ニシ全然政治的性質ヲ帶ヒサルモノノ外我館員ト伊國外務省又ハ宣傳省屬僚トノ間ニ簡單ニ處理シ得ルモノノ多カラス「ム」又ハ少クトモ「スウキッチ」ヲ相手ニ話合ヲ付クルノ要アリ而シテ「ム」トノ會見ハ自然大袈裟ニ傳ヘラルルヲ以テ例ヘハ貴電合第五二三號ノ如キ御訓示ヲ發セラルル場合ニハ當方ニ於ケル右特殊ノ事情御考慮相成度シ

115　伊エ紛争の解決にあたっては日本側の通商的利益を壟断はしないとの伊国外務次官の内話について

昭和10年8月28日　在伊国杉村大使より広田外務大臣宛（電報）

ローマ　8月28日発
本　省　9月20日着

郵第四號（極秘）

伊國[1]「エチオピア」間紛争其ノ後ノ狀況概要次ノ如シ

一、「ムッソリーニ」ノ二令息及女婿「チアノ」伯ノ出征竝ニ北方ニ行ハルル大懸リノ大演習ハ伊ニ戰時氣分張ルカノ觀ヲ呈スルモ人氣ハ依然引立タス伊側ハ「ウワル、ウワル」事件仲裁委員會ハ九月四日ノ理事會以前ニ伊ニ有利ナル判決ヲ與フヘキヲ豫期シ「エ」國膺懲、正當防衛殊ニ植民地ノ安全確保ノ爲ナルヲ高調シ聯盟ノ反對ヲ押切ラントス（二十四日英大使ハ仲裁委員會裁決委員「ポリチス」ト伊側トノ間ニ默約アリ苦々シト告ク）

二、英ハ三國會談決裂ノ經緯ニ顧ミ最早調停ニ乘出サス佛ト協力シ飽迄聯盟第一主義ヲ以テ進マントス（英大使ハ聯盟保全ノ爲ニハ伊ノ脫退ヲモ意トセスト洩ラス）英ハ萬一ノ場合ヲ慮リ國內各派ノ結束ヲ固メ且ツ地中海及亞典方面ニ種々緊急ノ軍事的措置ヲ講ス

(イ)英大使曰ク

英ノ軍事專門家ハ伊軍ハ「クリスマス」迄ニハ「アジス、アベバ」ヲ占領シ得ヘキモ全國平定迄ニハ尠クトモ三年ヲ要ストノ意見ナリ

(ロ)武器彈藥ノ輸出禁止ハ「エ」カ代金ヲ支拂ハサルヲ以テ實際問題トシテ論スル價値無キニ似タルモ凡ソ世界（ニ）武器密輸入程込入リタル內幕アルモノ無シ

(ハ)伊ハ宣戰セサルモ戰鬪開始後ハ禁制品（脫？）ヲ拿捕スト敦圉キ居レハ海上ニ面倒起ルヘシ云々

三、[2]英ハ「フアシスト」政府ノ首腦部カ昨今極度ニ興奮シ英政府ノ方策カ事毎ニ戰意アルカニ曲解セラルルヲ見テ諸

般ノ決定モ絶對秘密ト爲シ（英大使談）佛ハ伊當局ノ焦燥氣分カ落着カサル間交讓妥協ノ難キヲ察シ「ラヴアール」ハ佛大使ニ九月六、七日前ニハ解決ノ腹案ヲ呈示スヘカラスト嚴命ス（二十七日同大使内話）

四、佛大使曰ク「ラヴアール」ハ巴里會談ノ失敗ノ原因カ專門家ノ作成セル細目案ニ付初ヨリギコチナキ條約論ヲ上下シタル爲討議ニ融通性ヲ缺キタルニアリトシ（例ヘハ「ム」ノ問ニ對シ「エデン」カ其ノ呈示セル經濟上ノ讓歩事項カ制限的ノモノナリト答ヘシ爲「ム」ハ然ラハ滿足シ難シト簡單ニ跳付ケ夫レナリ會談カ決裂トナリタルカ如シ）今後ハ努メテ意思ノ硫通（疏カ）ヲ計リ先ツ大綱ニ付一致點ヲ見出サント欲ス「ラ」ハ獨裁政治家「ム」ノ立場ヲ察シ其ノ自尊心ヲ利用シテ寧ロ自發的ニ妥當ナル解決條件ヲ提出セシムルノ腹案ヲ有ス先ツ「エ」ヲシテ聯盟ニ紛爭ノ解決ヲ無條件ニテ申出テシメ次テ聯盟被利害關係國タル英、佛、伊ニ適當ナル解決案ノ上提ヲ要求セシメ英、佛ヲシテ一定ノ條件及保障ノ下ニ伊ニ對シ其ノ面目ヲ保ツニ足ル條件ヲ呈示スヘキヲ求メントス「ム」相手ノ談判ニハ氣合カ大切ナリ殊ニ彼ノ顔ヲ立ツルヲ忘ルヘカラス云々

五、(3) 然レ共「ム」ハ「エ」ニ經濟的ニ發展セントセハ先ツ以テ「エ」軍ニ一擊ヲ加ヘ伊軍ノ名譽ヲ恢復シ「エ」ニ對スル政治的權威ヲ高ムルヲ要スト爲スヲ以テ佛トシテハ最小限度ノ戰鬪行爲卽チ伊空軍ノ「デモンストレーション」及四十年前ノ戰敗雪辱ノ爲「アドア」占領程度ノ行動ハ默過セサルヘカラストノ意見ナルモ佛大使ノ内話ニ依レハ「ラヴアール」ノ旨ヲ受ケ「エクス、レ、バン」ニテ「ボールドウイン」ト會見シ其ノ内意ヲ探リタルニ「ボ」ハ斷然之ニ反對シタル趣ナリ

六、二十六日「スビツチ」次官ノ語ル所次ノ如シ

(イ)伊ハ決シテ聯盟ニ反對セス歐洲ノ平和確保ノ爲ニハ「ストレーザ」協定「ダニユーブ」規約ト同シク聯盟ノ權力ヲ認ム從テ此ノ際脫退又ハ會議缺席等ヲ考慮セサルモ唯「エ」ノ如キ國際義務ヲ無視シ多年ノ實驗上聯盟國タル資格無キコト明カトナレル非文明國ニ對シ文明國ト同シク規約ノ條項ヲ嚴密ニ適用セントシ又ハ「エ」ノ同意ヲ條件トシテ協定ヲ結フカ如キヲ容認スル能ハス

(ロ)(4) 伊「エ」紛爭ノ解決ニハ伊ノミ能ク責任ヲ以テ之ヲ遂行シ得ル實力ヲ有ス聯盟ノ國際的解決ニ信ヲ措ク能ハス而シテ之レ「ム」カ「エ」ニ各國將校ノ率ヒル國境軍隊ヲ新設シテ伊領植民地ノ安全ヲ確保セントスル英案ニ反對スル所以ナリ

(ハ)國内ノ秩序整然タル一般文明國トハ異リ極端ナル惡政行ハルル半開國ニ於テハ純然タル經濟問題無ク從テ經濟讓歩ナルモノ無シ軍事政治經濟混淆シ利權獲得ノ爲ニハ自ラ强力使用ノ已ム無キニ會ス

(ニ)然レ共「エ」カ獨立國タルハ動カスヘカラサル事實ナレハ之ヲ委任統治地域又ハ保護國ト爲ス能ハス

(ホ)列强トノ間ニ無用ノ紛議ヲ釀スハ好マシカラサレハ努メテ利己的獨占ヲ避ケ各國既得ノ權益ヲ尊重シ伊ノ施政ニ依リ寧ロ一般ノ利益增進ヲ計ラントス

尙本使ノ問ニ答ヘ目下政治及軍事上ノ問題ニ沒頭シ經濟上ノ案件ニ迄考慮ヲ及ホス餘裕無キモ伊トシテハ將來如何ナル解決ニ達ストモ日本カ有スル通商上ノ利益ヲ壟斷スルカ如キコトヲ考ヘ居ラスト述フ（英佛カ屢第三國ノ犧牲ニ於テ讓歩ヲ爲スニ顧ミ此ノ點ハ將來嚴ニ監視スルノ要アリ現ニ英大使ハ「エ」カ伊ノ勢力下ニ治メラルル際ニハ通商上ノ「フエアプレー」ハ覺束無シト語レリ）

七、(5) 佛大使曰ク「ボールドウイン」トノ會談ニ依リ「ボ」ハ獨裁政治家ノ遣口ニ對シ激シキ反感ヲ有スルモ左レハトテ紛爭ノ解決ニ對シテハ何等確信アル腹案ヲ持合ハセサルヲ突止メタレハ佛トシテハ英ト提携シテ紛爭ノ擴大ヲ警戒シツツ專ラ時日ノ經過ト狀勢ノ推移ヲ待チ伊カ或ハ戰勝ニ滿足シ又ハ惡戰苦鬪及國際輿論ノ攻擊ニ疲レ其ノ氣勢衰ヘタル頃ヲ見計ヒ實際ニ卽シタル解決案ヲ呈示シ何トカ圓滿ナル協定ニ達セントス而シテ先般來英、伊關係ヲ惡化セシメタル責任ノ大半ハ伊ノ新聞政策ニアレハ伊ヲ戒メ挑發的排英論ヲ愼マシメ英ノ國論ヲ和クルコト當面ノ急務ナリ云々

八、右ノ如ク伊「エ」紛爭ハ結局聯盟ノ依賴ヲ受ケタル英、佛ト伊トノ間ニ他ノ歐洲問題ト切離シ特殊ノ性質ヲ有スル案件トシテ主トシテ實際的見地ヨリ解決セラレ得ヘキヤニ察セラルルモ愈最後ノ決定ニ達スル迄ニハ目下ノ形勢ニテハ事件ノ擴大ノ惧ナキ模樣ナルモ聯盟ニ於ケル論議伊「エ」兩軍ノ衝突等猶幾多ノ曲折アルヲ免レサルヘ

シ

在歐各大使、壽府ニ暗送ス

116　昭和10年8月29日　広田外務大臣より在伊国杉村大使／在米国斎藤大使宛（電報）

日本は伊エ紛争に対し静観的態度をとり対エチオピア武器輸出および海軍問題に関する対伊国取引きの事実はないと外国新聞記者に説明について

本　省　8月29日後6時発

合第六一一號

廿九日倫敦及羅馬ヨリ日本カ最近「エチオピヤ」問題ニ關シ伊太利ニ一層同情的トナリ之ニ對シ伊ハ日本ノ海軍問題ニ關スル要求支持ヲ申出テタル旨及日本ハ「エチオピヤ」ニ武器ヲ供給シツツアル旨來電アリタリトテ當地外國新聞記者ヨリ質問アリタルニ對シ係官ハ日本ハ伊「エ」紛爭ニ對シ最初ヨリ靜觀的態度ヲ持シ居ルガ此點ハ變更ナシ又日本ハ伊太利ト「エチオピヤ」問題及海軍問題ニ就キ「バーゲン」シタルコトナク又「エチオピヤ」ニ武器ヲ供給シタルコトナシト言明シ右ノ趣旨ヲ聯合ヨリ放送セシメタリ

伊宛ニハ「在歐各大公使及壽府ニ轉電アリ度シ」米宛ニハ「紐育ニ轉電アリ度シ」ト附加ノコト

117　昭和10年9月13日　在伊国杉村大使より広田外務大臣宛（電報）

伊エ紛争に対する我が方対処方針につき在伊国英国および米国大使より照会について

付　記　九月十九日付陸軍省軍事課作成「伊太利及「エチオピア」ニ對スル態度」

ローマ　9月13日後発
本　省　9月14日前着

第一一三號（極秘）

一、日本カ伊「エ」紛爭ニ對シ今後如何ナル行動ニ出ツヘキカニ付テハ伊ハ勿論英米側モ注意ヲ怠ラサル模樣ナル處先日「ドラモンド」ヨリ種々立入レル質問アリ貴電第三五號ノ趣旨ニ依リ然ルヘク答ヘ置キタルカ十三日米大使來訪シ壽府ニ於ケル英佛ノ行動及「ヒツトラー」ノ態度ヲ注意シツツアルコトヲ述ヘ殊ニ日本ノ動向ヲ尋ネタルヲ以テ前記趣旨ニテ答ヘ置キタリ

二、米大使ハ政府及政界ノ有力筋ニテハ過般議會決議ノ趣旨ニ依リ此ノ際自重シテ動カサル方針ナルモ伊國ノ反英的宣傳戰ハ米ノ輿論ヲ反伊的ナラシメタルヲ以テ愈戰鬪開始ノ曉ニハ輿論ハ相當動搖スヘシト述ヘタルカ英カ米ノ支持ヲ得ント頻リニ工作スルニ對シ伊モ亦對應策ヲ講シ「チアノ」カ「エリトリア」ヨリ米ニ放送シ伊ハ「エ」國ヲ各國ノ資本及勞力ニ開放スル用意アリト述ヘタルハ米ノ歡心ヲ買ハントノ底意ト解セラル

英、米、佛ヘ暗送セリ

（付　記）

昭和一〇、九、一九
軍　事　課

伊太利及「エチオピア」ニ對スル態度

方　針

帝國ハ伊「エ」紛爭問題ニ関シテハ中立的態度トス

指導要領

一、帝國ハ西欧列强ヲシテ欧洲乃至「アフリカ」ニ於テ相互ニ角逐シテ爲シ得レバ欧洲大戰ニ至ラシメ共ニ疲弊セシムル如ク施策スルヲ以テ對欧政策指導ノ根本要領トス

二、「エチオピア」ニ對シテハ人種問題及經濟問題ノ見地ヨリスル國内輿論ヲ考慮シテ對策ヲ講ス

三、伊太利ニ對シテハ對「エ」强硬政策ヲ敢行スル如ク施策ス

118　昭和10年9月20日　在伊国杉村大使より広田外務大臣宛（電報）

伊国・エチオピア開戦の危険性および連盟による対伊制裁の可能性などにつき在伊国英国大使より聞込みについて

ローマ　9月20日後発
本　省　9月20日後着

第一一六號（極秘）

十九日「ドラモンド」内話要領[1]

一、伊「エ」開戰ハ最早避ケ難シ或ル伊國要人ヨリ昨日「若シ「エ」駐在伊國領事カ殺害セラレタリトセハ開戰ノ理由ト爲シ得ヘキヤ」ト内密ニ問ハレタルカ伊國側ハ目下開戰ノ口實發見ニ焦リ居ル模樣ナリ「ムツソリーニ」ハ

夙ニ東阿遠征ノ下心アリタルカ一月「ラヴアール」ヨリ「エ」ニ對スル行動ノ自由カ認メラルルヤ（「ラ」ハ經濟的ノモノト解シタルモ「ム」ハ「エ」ノ如キ半開國ニ對スル經濟的發展ニハ當然軍事的工作ヲ要スト解ス）大イニ調子付キ其ノ後ハ英國側ノ反對ヲ除クコトニ努メ居リタルカ何分伊國ノ輿論一向緊張セサル爲英ニ難色アルヲ利用シテ國論ノ結束ヲ計リ更ニ最近ハ各國ニ於ケル反「ファッショ」ヲ誇張シテ國民ノ敵愾心ヲ唆リタル爲今ヤ聯盟ヲ中心トスル各國一致ノ反對ニ逢フモ最早退クニ退ケヌ破目ニ立チ自ラ平和的解決ヲ絶望ナラシメタリ

二、[2]英ノ方針ハ其ノ後毫モ變更セス從テ自分トシテハ伊國側トノ接觸ニ努ムル要ナク靜ニ状勢ノ發展ヲ待ツノミナリ

三、「ム」ハ何時ニテモ戰爭ヲ打切リ得ルカハアルヘキモ戰端一度開カレンカ實際上ハ「アドワ」ノ占領程度ニテ停止スル能ハス勢ニ驅ラレ「エ」皇帝ヲ屈服セシムル迄ハ止マサルヘシ其ノ場合聯盟ニ「伊」ヲ制壓シ得ルカアリヤ疑ハシク既成事實ヲ默認スルノ外ナキニ至ルヘキカ

四、伊ノ財政ハ開戰ト共ニ益々窮乏シ支拂不能ノ爲輸入杜絶シ紙幣ノ發行額此ノ上激增センカ今年ノ冬ニハ物價異常ニ騰貴シ恐ラク動キノ取レヌ窮境ニ陷ルヘシ

「ム」ハ「エ」ニアル鑛山ヲ擔保トシテ外資ヲ仰カントスル計畫ノ由ナルカ右ハ空頼ニ終ラン

五、[3]聯盟ノ制裁ハ有效ナルヲ要スル處日、米、獨カ聯盟外ニアルト佛ノ困難ナル立場トニ顧ミ聯盟ハ容易ニ制裁ヲ決スヘカラサルモ聯盟各國カ一致シテ伊トノ通商金融關係ヲ決議スル丈ケニテモ相當ノ效果ハアラン經濟封鎖ハ自然戰爭ヲ誘發スヘク又若シ伊カ宣戰ヲ布告セスシテ海上搜査又ハ拿捕ヲ行ハントスル場合ニハ英海軍ハ斷乎タル處置ヲ執ルヘケレハ事態ノ紛糾ハ覺悟セサルヘカラス尤モ「スエズ」運河ノ閉鎖ハ極メテ重要ナル處置ナレハ容易ニ斷行セス

六、「ム」ハ十四日ノ閣議ニテ聯盟ニシテ伊ノ名譽ヲ毀損スルカ如キ決定ヲ爲サハ脫退セント明言セシ由ナレハ第十五條ニ依ル勸告カ決セラルルト共ニ恐ラク脫退ノ餘儀無キニ立至ルヘシ然レトモ歐洲ニ於ケル伊ノ地位ハ孤立ヲ許サス況ンヤ獨ト結ヒ得サル伊トシテハ最後迄脫退ヲ躊躇スルナラン

七、英ノ有力筋ニテハ日、英、米、佛等ノ間ニ不戰條約ト聯盟規約（但シ第十六條ヲ除ク）トヲ適宜組合セ屈伸性アル平和機構ヲ考案シ少クトモ各大國ノ代表者ヲシテ定期ニ會合スルヲ可能ナラシメントスル強キ希望ヲ目指シツツアルカ愈物ニ成ル迄ニハ相當ノ時日ヲ要セン（尚本件將來ノ成行ハ此ノ上トモ注視スヘク御含迄）

在歐各大使へ暗送ス

119　昭和10年9月21日　在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛（電報）

エチオピア問題に関する伊国側の根本的主張を説明の上日本側理解を求める同国連盟代表の堀田局長への内話について

ジュネーブ　9月21日後発
本　省　9月22日前着

第一六九號

二[1]十日午後堀田局長ニ對スル「アロイジ」ノ内話要領左ノ通

㈠元來「エチオピア」ハ始末ニオヘヌ國ニシテ種々面倒起キテ今日ニ至レルガ順調ナル發達ノ見込ナク斷乎タル處置ヲ要スルニ至レルモノナルカ今回ノ問題ニ關スル伊太利ノ主張ハ

第一、海外發展ヲ必要トスル伊太利ノ國情カ同方面ニ對スル勢力ノ確立ヲ要求スルコト

第二、其ノ要件トシテ行政監督等ニ依リ同國ニ於ケル安寧ヲ樹立シ

第三、之ト同時ニ同國軍備ノ監督取締ヲ實行スルコト

ノ三點ニアリ日本ノ輿論ハ本問題ニ對シ大ナル關心ヲ示シ居ル如ク現ニ今朝モ朝日新聞ヨリ電話ニ依ル會見ノ申込アリタル程ナルカ日本ニ於テ伊國ノ根本主張ノ眞相ヲ充分ニ了解セラレンコトヲ切望ス同地方ニ於ケル日本品輸入ノ將來ニ對シ心配セラルル向モアルヘキモ此ノ種ノ問題ハ商議ニ依リ適當ニ整調スルコトヲ得ヘキモノト思考ス

㈡五人委員會ノ提案ハ結局「エチオピア」ヨリ總テノモノヲ取上ケテ國際聯盟ノ手ニ收メントスルモノナルカ其ノ實ハ聯盟ノ美名ノ下ニ英國カ同國ニ對スル最後ノ監視權ヲ握ラントスルモノニシテ若シ英國ノ主張カ同地方ニ於

ケル一定ノ特殊權益ノ保障ニアルナラハ其ノ解決ヲ圖ルコト容易ナルモ一般的ニ同地方ニ於ケル伊國ノ勢力發展ヲ牽制阻止セントスルモノナルカ爲妥協ノ途ナク今日ノ如キ事態ノ紛糾ヲ來セルモノナリ

(二)[2] 右提案ニ對シ羅馬ヨリ如何ナル返答來ルヘキカハ素ヨリ豫斷シ難キモ「ム」首相ハ先ツ本問題ニ對シ何ノ程度迄聯盟ノ干與ヲ認ムヘキカノ點ニ付考慮ヲ加フルナルヘク若シ單純ニ之ヲ拒否セサル場合ニモ伊國カ同案ニ依リ現實ニ獲得スヘキ地位ノ範圍、限度ニ關シ明確ナル說明ト保障トヲ求メ其ノ上ニテ諾否ノ決定ヲ爲スコトトナルヘシ

(四) 英國ハ地中海ニ艦隊ヲ集中シテ伊國ヲ脅威セント試ミ居リ伊國モ之ニ對抗スル爲軍隊ノ動員ヲ行フノ已ム無キニ至レルカ歐洲ニ戰禍ヲ波及セシムルコトハ伊國トシテモ極力忌避セントスル所ナルヲ以テ伊國カ「エチオピア」ニ軍事行動ヲ起シタル場合聯盟ニ於テ規約違反ト認メ制裁手段ヲ決議スルカ如キ事態トナルモ資金ノ融通ヲ絶チ原料品ノ供給ヲ拒ミ軍需品ノ輸出ヲ禁止スルト云フカ如キ經濟的制裁ノ程度ニ止マル限リ伊國トシテハ之ヲ戰爭行爲トハ看做サス甘受スヘシ然レトモ經濟的性質ヲ逸脫シ伊太利ノ「プレステージ」ヲ害スル場合例ヘハ「スエズ」運河ヲ閉鎖スルトカ又ハ伊國船ヲ臨檢スル場合ニハ之ヲ挑戰行動ト認メサルヲ得サルニ至ルヘシ此ノコトハ今朝迄佛代表部トノ間ニ懇談ヲ遂ケ置キタリ

素ヨリ單ナル話合ニテ協定ト云フカ如キ性質ノモノニアラス

米、在歐各大使ヘ轉電セリ

120 昭和10年9月28日 在伊国杉村大使より広田外務大臣宛(電報)

伊エ紛争にあたりムッソリーニ周辺および連盟関係諸国の動向等につき在伊国各国大公使より聞込みについて

ローマ 9月28日後発
本省 9月29日前着

第一二五號（至急、極秘）

伊[1]「エ」紛爭ニ關シ

一、戰鬪ハ今後十日間ハ開始セスト「ムツソリーニ」確信ス

（二十七日佛大使内話）

二、「ム」ハ此ノ儘ニテ進マハ伊ノ不況ハ益々深刻トナリ來年ハ動キノ取レヌ苦境ニ陷ルヘケレハ寧ロ國力ニ多少ノ餘裕アル此ノ際遠征ヲ斷行スルニ如カスト思惟シタルカ豫期ニ反シ早クモ財力枯渴セントスルヲ見テ頗ル狼狽シ近來何事モ焦リ氣味ナリ又遠征ヲ決スルニ當リ「フアシスト」幹部ニ對シ今後二年間ハ獨ニ南下ノ實力無ケレハ東阿ニ事ヲ構フルモ北方ヲ脅サルル惧無シト告ケタルニ今ヤ列國一致ノ反對ニ遭ヒ且ツ事毎ニ聯盟及英ニ致サルルヲ見テ一部ニハ「バルボー」擁立論サヘ擡頭シツツアリト傳ヘラルレハ「ム」トシテハ最早一戰ヲ交ヘサルヲ得サル破目ニアリ（二十七日英大使内話）

三、「ム」ハ國際情勢ノ惡化ニ大ナル不安ヲ感シ毎日外國記者一名ヲ引見シ各國輿論ノ動向ヲ注視シツツアリ本來記者出身ナレハ新聞論調ニハ特殊ノ興味ヲ有スルモ筆禍ヲ惧レ近來一切ノ論說ヲ公表セス

四、[2] 東阿派遣軍ハ最近到着セル增遣部隊ヨリ國際情勢ノ不利ヲ聞キ士氣沮喪セリト傳ヘラル（二十七日「ユーゴースラブ」公使内話）

五、「ム」ハ理事會ノ勸告アルモ脫退セサルコトニ肚ヲ決メ（佛大使内話）而シテ三箇月經過後迄開戰ヲ差控ユル（規約第十二條第一項）樣子ナク從テ戰鬪開始ト同時ニ經濟上及金融上ノ制裁加ヘラルヘキモ（英大使内話）「ム」ハ現金取引ノ今日伊ニハ支拂フヘキ現金無ケレハ經濟封鎖モ意トスルニ足ラスト豪語シ聯盟制裁カ軍事的性質ヲ帶フルニ至ルマテハ Jausbelli (ius belli ?) ナシトノ見解ヲ執リ規約第十六條ノ適用ヲ默殺セントス

六、「ム」ハ「アドワ」ノ占領ニ依リ雪辱シタル後手際良クヿ和セントスル下心ナルカ如キモ「エ」皇帝ヲ降服セシムルニアラサレハ有利ナル媾和條件ヲ獲得スルコト覺束無カルヘク聯盟ハ右降服ヲ見ル迄座視セサルヘシ英ハ理事會ハ規約第十六條ノ適用上廣汎ナル權能ヲ有スレハ必要ノ場合ニハ「スエズ」運河閉鎖ト事實上同樣ノ效果アル或種ノ措置ヲ執リ伊本國ト東阿派遣軍トノ連絡ヲ脅スヘシ（英大使談）右ニ對シ伊ハ海軍ハ兎モ角空軍ハ英ニ劣ラスト力ム（「スビツチ」十九日内話）

七、[3] 理事會ハ勸告案可決迄ハ和協ニ努ムル意嚮ナルモ英ハ之ヲ斷念シ（英大使内話）佛ニハ尙未練アリ何トカシテ話

ノ緒ヲ見出サントス（佛大使内話）

八、五人委員會ノ提案ハ「エ」國援助計畫ノ枠ヲ呈示シタルニ過キス従テ如何ニ其ノ内容ヲ滿タスヘキカニ依テ之ニ對スル伊ノ態度カ決セラレル筈ナルニ「ム」カ之ヲ以テ其ノ最小限度ノ要求ヲ滿タサスト爲シ無下ニ拒絶シタルハ血ヲ見サレハ止マストノ決意ヲ示スモノニシテ平和的解決ヲ絶望ナラシメタリ（英大使内話）

然レトモ聯盟カ紛争其ノモノノ解決ニハ直接關係ナキ援助問題ヲ提起シ其ノ實行ニ付テハ何等ノ保障ヲ與ヘス又自ラ責任ヲ取リ得サル勸告案ヲ突付ケ之ニ應セサレハトテ伊ヲ罪人扱スルカ如キコトアランカ何人モ其ノ不當ヲ認メサルヲ得サルヘシ（佛大使内話）此ノ際規約第十九條ヲ適用シ問題ヲ聯盟ヨリ引離シ利害關係國間ノ審議ニ移サントノ説行ハルルモ總會ノ會期ニ餘日無ク又「ベネシュ」議長ハ勿論墺洪兩國代表モ之カ發議ヲ躊躇スヘケレハ實現ノ可能性無シトセラル

九、[4] 伊ノ財政及經濟ノ將來ニ對シ米大使ノ如キハ甚シキ悲觀的觀察ヲ下シ二、三年ノ後ニハ金準備モ皆無ニ歸セントト語リ現ニ「スヴヰツチ」次官ハ各國大公使ヨリノ國際債務決濟方ノ督促（「ユーゴースラブ」ニ對シテサヘ現ニ一億二千五百萬「リラ」ノ借方トナル）ニ惱マサレ假令「エ」國遠征ニ深入リセストモ伊ノ國力減退ハ動カスヘカラサル事實ナレハ佛ノ如キハ早クモ獨ニ對スル盟邦トシテ多クヲ伊ニ期待シ得サルニ至ルヘキヲ惧ルルモノノ如キモ伊ハ「ラヴアール」失脚スルモ英カ進ンテ中歐ノ安全ヲ保障セサルヘキヲ見拔キ佛カ依然伊ヲ棄テサルヘキヲ信ス（二十七日「ユ」國公使内話）

英ハ聯盟ノ蔭ニ隱レ巧ニ之ヲ操リ着々豫定ノ計畫ヲ遂行シ「エデン」ハ憎マレ役「ホーア」ハ好キ子トナリ掛引緩急宜敷キヲ得タルヲ以テ伊ニ對スル米輿論ノ反感モ近來頓ニ昂マリツツアル由ニテ（米大使内話）羅馬[5]ニアル各國使臣中ニモ聯盟ノ眞ノ敵ハ日獨ニアラスシテ「ム」ナリ從テ此ノ際斷然タル制壓ヲ伊ニ加ヘサルヘカラスト唱フルモノアリ又法王廳ノ伊ニ對スル態度强硬ナルモノアリ（二十七日法王廳駐劄佛大使内話）

伊ハ今ヤ四面楚歌ノ形ナルモ「ヒツトラー」ノ周圍ニテハ獨裁政治家タル「ム」ノ沒落カ「ナチス」政權ノ將來ニ及ホス影響ノ大ナルヲ憂フルアリ（波蘭大使内話）又

民主主義諸國ニ於テモ「フアシスト」政權崩壞ニ依リ歐洲政局ノ混亂殊ニ獨カ大手ヲ振リテ「アンシュルス」ヲ斷行シ勢ノ趨ク所遂ニ猿臂ヲ地中海ニ伸ハスニ至ルヲ惧ルレハ「ム」ヲ窘メントスルモ倒サントハセス況ヤ巴爾幹及中歐ノ諸小國ハ聯盟ノ制裁ニ依リ却テ禍ヲ受クルヲ憂ヒ其ノ他伊カ東阿ニ派遣セル大軍ハ何ノ途穩便ニ歸國セシメサレハ意外ノ禍根トナルヘケレハ伊ニ對スル聯盟ノ壓迫モ一定ノ限度ヲ超エサル理由アルヤニ認メラル

在歐各大使（土ヲ除ク）ヘ暗送セリ

〰〰〰〰〰〰〰〰

121　昭和10年10月2日　在伊国杉村大使より　広田外務大臣宛（電報）

伊国の対日態度緩和の背景には日伊間に黙契ありとの在伊国独国大使の推測につき打ち消しについて

ローマ　10月2日後発
本　省　10月2日後着

第一三〇號（極秘）

一日獨大使來訪近頃獨カ波蘭、洪牙利ヲ使嗾シテ伊ニ同情アル態度ヲ執ラシムトノ風評アルモ右ハ全然事實ニ反ス自分ハ最近伯林ニテ「ナチス」ノ幹部ト徹底的ニ意見ヲ交換シタルカ獨ノ伊ニ對スル昨年以來ノ反感依然トシテ强ク從テ此ノ際伊ノ爲ニ好意的措置ヲ執ルカ如キハ思ヒモ寄ラス又獨ノ軍備ハ外敵ノ侵入ヲ防クニ足ルモ夫レ以上ノ餘力ナケレハ伊「エ」紛争ノドサクサニ乘シ「アンシュルス」ヲ斷行スル意嚮モナシ此ノ點切ニ誤解ナキヲ望ムト言ヘルニ付一應聽キ流シ置ケリ

次ニ同大使ハ近來日本ニ對スル伊ノ態度急ニ緩和シタルハ何等カ政治的默契出來タルカ爲ナラン現ニ支那ニ於テ相當勢力ヲ振ヒタル伊ノ飛行機教官ヲ東阿ニ呼寄セタルハ日本ノ歡心ヲ得ントスル伊ノ魂膽ニ出ツト傳フルモノアルカ如何ト問ヒタレハ全然斯ルコトナシト答ヘ置ケリ

在歐各大使（土ヲ除ク）、壽府へ暗送セリ

〰〰〰〰〰〰〰〰

122　昭和10年10月4日　広田外務大臣より　在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事宛（電報）

伊エ紛争に対し連盟が規約第十六条適用時の対応に関する外国人記者の質問に我が方独自

に対応する旨回答について

本　省　10月4日後7時発

第九〇號

貴電第一九六號ニ關シ

三日在京外國記者ヨリ本社ノ電命ニ依ル趣ヲ以テ聯盟カ第十六條適用ノ場合日本政府ノ措置ニ付問合セアリ四日外國新聞記者定期會見ノ際ニモ同樣ノ質問出テタルニ對シ係官ハ日本ハ伊「エ」紛爭ノ成行ヲ非常ナル興味ト關心トヲ以テ注視シ居ル處聯盟カ十六條ヲ適用スル場合如何ナル態度ニ出ツルカノ假設的問題ニ對シテハ未タ言明スルヲ得ス尤モ日本ハ非聯盟國ナル故獨自ノ見解ヲ以テ態度ヲ決定ス可キ筋合ナリトノ趣意ニテ應答シ置ケルニ付貴方ニ於テモ右ノ趣意ニテ應酬セラレ度シ

在歐各大使ニ轉電アリ度シ

在米大使ニ轉電セリ

123　昭和10年10月7日　在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛（電報）

伊国・エチオピア間の戦闘開始にあたり伊国に対し連盟規約第十六条の適用を認めた六人委員会報告を連盟ポーランド代表より内示について

ジュネーブ　10月7日後発
本　省　10月8日前着

第二〇三號（極秘）

七[1]日朝波蘭代表「コマルニツキ」公使ヲ往訪セル處六人委員會報告案ヲ内示シ（同報告ハ最近戰鬪開始ノ經過ヲ敍シ伊太利ニ對シ第十六條ノ適用ヲ認ムル趣旨ナリ午後公表後電報スヘシ）且ツ「ベツク」外相ヨリ日本ノ代表者ニハ一切ノ情報ヲ供給セヨトノ命令アリタル故遠慮ナク語ルヘシトテ左ノ通リ内話セリ

一、對伊制裁ニ關スル英國ノ態度ハ驚クヘク强硬ナリ同政府ノ腹案ハ左ノ三項目ヨリ成リ即時實行ノ決意ヲ有スト確聞セリ

其ノ一ハ財政對鎖ニテ伊太利ニ對スル一切ノ「クレジツト」ノ供與ヲ禁止スルコトナルカ之ハ既ニ實際上行ハレ居レリト見テ可ナリ

其ノ二ハ輸出禁止ニテ戰爭ニ必要ナル原料品ノ供給ヲ杜絶スルコトナルカ鑛產品中銅、鐵、「ニツケル」等ハ問題ナキモ石炭及石油ニ付テノミ留保スヘシ其ノ表面的理由ハ國民ノ日常必需品ナリト云フニアルモ内面的ニハ獨逸不參加ノ場合ニ同國ニ依ル伊太利市場ノ獨占ヲ惧ルルニ依ルカ如シ

其ノ三ハ輸入禁止ニテ伊太利產品ノ買付ヲ一切嚴禁スルコトニアリ伊國ノ經濟界ニ取リ大打擊タルヘシ

英國ハ右ノ實行ヲ提議スルニ當リ此ノ制裁ニ參加セサル諸國ニ對シテハ直ニ輸入數量制限ヲ實施スルノ用意アル旨ヲ聲明スル豫定ニシテ右聲明ハ今日ノ理事會カ遲クトモ總會ノ初ニ之ヲ爲ス筈ノ由ナリ

二、佛國ハ右ノ内一及二ニハ同意シ居ルモ三ニハ之ヲ躊躇シツツアリ然シ英國カ頑張レハ佛國モ追隨ノ外ナカルヘシ波蘭ノ立場ニ付テハ「アロイヂ」ヨリ自分ニ對シ再三緩和方懇談アリタルモ自分ハ波蘭トシテハ規約擁護以外ニ執ルヘキ術ナク波蘭ノ安全ヲ保障スル一切ノ條約ハ聯盟ヲ離レテ存立シ得ス規約ニ基ク制裁ハ侵略者ノ決定ト同時ニ自動的ニ發動スヘク自分等ハ之ヲ阻止スル力ナシト繰返シ置ケルカ政府トシテハ結局佛國ト行動ヲ共ニスルノ外ナシ波蘭ノ產物ノ二割餘ハ英ヲ顧客トスル爲英ニ「ボイコツト」サレテハ其ノ市場ヲ北歐諸國（勿論英ノ制裁案ニ同意ス）殊ニ丁抹ニ奪ハレ左ナキタニ農村疲弊ニ苦メル我方ニ取リ重大問題ヲ生スヘシ右ハ獨リ波蘭ノミナラス致國ヲ初メ歐洲諸國ハ今ヤ經濟上悉ク英國ニ牛耳ヲ執ラレ居ル故今度モ自然英國案ニ大体同意ノ外ナシト思ハルルモ

三、[3]事態右ノ通ニテ英國ノ腹ハ此ノ際飽迄伊太利ヲ屈服セシメスハ止マサルニ決シ居リ現ニ伊ノ對英直接交渉モ一向物ニナラス地中海方面ノ形勢今ノ儘ニテ前述制裁實行ノ場合ハ實ハ英伊衝突ノ危險性頗ル多シト觀測セラレ自分ハ伊太利ノ將來ニ付悲觀的同情ヲ禁シ得ス

四、尙制裁問題ニ關シテハ一九二七年總會書類Aノ十四ノ第四十三頁（第十六條ノ修正及經濟制裁ノ件）參照アリ度ク又今度ノ總會ニテ制裁方法統制委員會ニ日、米、獨、伯ノ參加ヲ求ムル件ハ事務局ノ發案ニテ英佛間ニモ話合アリタル結果ナル處米ハ既ニ積極的協力ヲ受諾ノ筈ナルカ日本ノ態度如何ニヤ（之ニ對シ本官ハ貴電第九〇號ノ趣旨ニテ答ヘタルニ）自分等ハ聯盟ニ於ケル日本ノ地位カ着々好轉シツツアルヲ欣フモノニテ此ノ際日本政府カ

餘リ聯盟ヲ無視セラレサル様切望ス
英、米、佛、伊ヘ轉電シ獨、白、露ヘ暗送セリ

24 伊国、英国、仏国、連盟等の伊エ紛争に関する動向につき各方面からの内報について

昭和10年10月7日　在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛(電報)

ローマ　10月7日後発
本　省　10月8日前着

第一三八號(極秘)

[1]各方面ノ最近ノ内報ヲ綜合スルニ

一、「ムツソリーニ」ハ政治的ニハ戰爭永引カハ内外ノ形勢益々不利トナルヘキヲ察シ早目ニ媾和セントシ軍事的ニハ昨今伊本國ノ防備殊ノ外忽セニスルヲ得サルモノアルニ加ヘ東阿遠征ノ準備不充分ニテ彈藥等モ豊富ナラサレハ奥地ニ侵入スルニハ容易ナラス從テ一定ノ線迄ノ進出ノ後ハ「エ」ヲ嚇シ有利ナル平和條件ヲ獲得スル爲更ニ進出ノ態度ヲ裝フヘキモ其ノ實守勢ヲ取リ占領地ノ防備ヲ固ムル計畫ノ如ク素ヨリ長期ノ戰爭ヲ期待セス相當ノ戰果ヲ收メ遠征ノ將士カ名譽ノ凱旋ヲ爲シ得ルニ至ラハ速ニ平和工作ニ取掛ルモノト推察セラル右ハ「ム」カ九月中英及聯盟ノ壓迫加ハリシトキ「スウイツチ」、「アロイヂ」等ヨリ態度緩和ヲ歎願セラレ「ファシスト」ノ猛者連ヲ憤ラシムル迄一時ハ讓歩ニ傾キタルニ照ラスモ疑無キ所ナリ

[2]英佛ハ開戰後ト雖何時ニテモ平和ノ交渉ニ應スル用意アリト稱スレハ戰闘一段落ヲ告ケタル後何等カノ方法ニ依リ話合ヒ開始セラルヘク而シテ佛ハ成ルヘク速ニ最終的協定ニ達セント努ムヘキモ英ハ土ヲ初メ此ノ機ニ乘シ多年ノ希望ヲ達セントスルモノアルニ顧ミ何時迄モ協定成立ヲ遷延スルノ危險ヲ知ルモ伊ノ國力及「ム」ノ氣勢カ或程度迄衰フルヲ見極ムル迄ハ飽迄之ヲ抑ヘ伊ノ欲スル平和條件ヲ拒否スヘケレハ戰闘熄ムモ平和ノ克復迄ハ相當ノ時日ヲ要スヘシト觀測セラル

二、聯盟ノ制裁ニ付英ハ制裁ノ實行其ノモノノ効果ヨリモ之ヲ加ヘントスル脅威ノ方自國ニ取リ安全且ツ比較的有效ナルヘシト認メ輕擧セス聯盟ニ於ケル各國一致ノ決定ハ種々ノ障碍ノ爲結局最小限度ノ制裁ヲ加ヘ得ルニ過キサ

ルモ順次制裁ヲ强化セントスル氣勢ヲ示シ以テ精神的ニ伊ヲ壓迫セントシ

[3]佛ハ獨ノ脅威ニ對スル一般的理由ノ外伊トノ間ニ六月締結セラレタル軍事密約アリ而シテ空軍ニ付テハ英カ「ロカルノ」協約ニ附帶スル五國間ノ空戰條約締結ヲ主張シ佛伊間ノミノ約定ニ反對シタルト佛伊空軍ノ共同動作ニハ技術上幾多研究ヲ要スルモノアレハ未タ協定ニ至ラサルモ陸軍ニ付テハ「アルプス」國境ノ軍團相互撤退ニ付確約アリテ伊ノ北部軍團中ニハ既ニ從來ノ地點ヨリ東方ニ移轉セルモノサヘアレハ今更伊ニ對シ强力ヲ以テ制裁ヲ加フル立場ニアラス(伊カ九月二十五日地中海上ノ援助ヲ佛ニ求メタルハ佛伊間ニ海軍協定ナキヲ知レハナリ)他方獨ハ飽迄自重シ「アンシュルス」ハ勿論「メーメル」ニ對シテモ此ノ際妄動ヲ戒ム肚ト推察セラル

[4]其ノ他伊ニ反感ヲ有スル諸國モ東阿遠征ノ失敗ニ依リ伊ノ脅威ヨリ免レント希フモ「ム」ノ政權崩壞ニ依リ歐洲大陸ノ安定カ失ハルルヲ欲セス況ヤ此ノ際自ラ進テ戰爭ノ渦中ニ投セントスルモノ無ク伊モ亦英ノ横槍ヲ惧レ挑發的行動ヲ愼メハ戰局カ歐洲ニ擴大スルノ惧ナキモノト判斷ス尙今回ノ事件ニテ著シク世界的權威ヲ恢復シタル英ハ平和ノ協定ニ際シテモ必スヤ其ノ地歩ヲ强メ各方面殊ニ東亞ヘノ進出ニ資スヘシト豫測セラル

米ヘ轉電シ在歐各大使(土ヲ除ク)、壽府ヘ暗送セリ

125 連盟による対伊制裁の我が方への影響を研究する素材とするため各国の制裁への参加振りおよび各国経済への影響等につき調査方訓令

昭和10年10月11日　広田外務大臣より 在仏国佐藤大使 在米国斎藤大使 宛(電報)

本　省　10月11日後8時10分発

合第七五三號

聯盟ノ對伊制裁實施ニ依リ本邦經濟界ニ如何ナル影響アルヘキヤ又本邦ハ貿易上如何ナル措置ヲ執ルヘキヤ等ノ問題ヲ研究スル材料トシテ左ノ諸點ニ關スル責任國ノ情勢及其見透シ至急(遲クトモ二十六日頃迄ニ)御回電相成度

(欄外記入)

一、如何ナル程度迄ノ制裁的措置ヲ執リ得ル實狀ナリヤ其具體的内容

二、制裁參加ノ爲ニ蒙ル責任國ノ經濟的(特ニ通商上ノ)影

響

三、本邦トノ通商ニ對スル直接間接ノ影響又ハ本制裁實施ニ關聯シ通商上特ニ本邦側ノ留意スヘキ事項

四、其他參考トナルヘキ事項

佛ヨリ本大臣ノ訓令トシテ伊ヲ除ク在歐各大公使ヘ、參考トシテ伊ヘ轉電アリタシ

（欄外記入）

通商審議會委員招待ヲ本月末ト見テ下記日限ヲ附セリ

〜〜〜

力スルモ同様ノ事件カ蘇聯邦ノ國境ニ發生シタル如キ場合ニハ英國政府ハ今回ト同様ノ態度ニ出ツルモノト思考シテ差支無キヤトノ意味ノ照會ヲ爲シ英國政府ヨリ未タ回答ニ接セサル由ナリ

右ハ貴國トモ關係アルコトナルカ蘇ノ行動ニ關シ何等確報ヲ有セラルルヤト尋ネタリ此ノ點ハ未タ當地ニテハ確メ難キモ御參考迄

英、伊、佛、露ヘ暗送セリ

128　昭和10年10月15日　在仏国佐藤大使より広田外務大臣宛（電報）

対伊制裁に関する連盟からの参加要請以前に我が方より両当事国への武器輸出禁止を宣明すべき旨意見具申

パリ　10月15日後発
本省　10月16日前着

第三三五號

伊[1]「エ」紛争ニ關シ愈規約第十六條ノ適用ヲ見ルニ至リ非聯盟國殊ニ米、獨、日ニ參加ヲ招請スヘシトノ報喧傳セラレ右ハ直ニ實現セサルニセヨ目下壽府ニ於ケル審議ノ進ムニ連レ我方ニモ聯盟若ハ英國側ヨリ「アプローチ」シ來ルコト無キヲ保セサル處我國トシテハ其ノ對聯盟關係、日支事變ノ際ノ經緯、又伊「エ」兩國トノ關係上モ此ノ際嚴ニ中立的態度ヲ持シ歐洲ニ於ケル此ノ不幸ナル紛争カ一日モ速ニ圓滿、平和的ニ解決スルコトヲ希フ外他意無カルヘク就テハ聯盟等ヨリノ申出ニ接シテ初メテ帝國ノ態度ヲ回答スルヨリモ寧ロ之ニ先立チ帝國ノ前記根本精神ヲ宣明シ且ツ不取敢ノ措置トシテ伊「エ」兩國ヘノ武器輸出ヲ禁止シ其ノ旨宣言セラルルコト目下ノ事態ニ際シ帝國ノ態度ヲ公明ナラシムルノミナラス他日萬一再ヒ日支間ニ不幸ニシテ紛争起リタル場合等ニ備フル爲ニモ適當ナルヘシト思考セラル

尚[2]規約第十六條ノ適用ト一般國際法上ノ中立義務ノ觀念トハ一致セサル點アルヘキモ今回ノ紛争カ主トシテ歐洲問題タルニ顧ミ帝國ハ聯盟ノ決議如何ニ拘ラス中立的態度ヲ取リ消極的ニ聯盟ノ措置ヲ妨害セサル方針ニ出ツルコト然ルヘキヤニ存セラル

右卑見御參考ニ供スルト共ニ昨今ノ新事態ニ付何等御決定ノ次第アラハ御回示ヲ請フ貴電合第七五三號ニ關シテハ追テ電報スヘシ

在歐米各大使（土ヲ除ク）壽府ヘ暗送セリ

129　昭和10年10月19日　広田外務大臣より在仏国佐藤大使宛（電報）

連盟もしくは英国からの申入れ以前に対伊制裁への我が方態度を宣明する必要は認められない旨回答

本省　10月19日後4時40分発

第一八〇號（極秘）

貴電第二三五號ニ關シ

對伊經濟制裁ニ協力ヲ求メラルル場合ニハ申入レノ内容ヲ檢討スル必要アルモ大体我方トシテハ制裁ニ協力スルヲ得ザルモ紛争ノ急速ナル解決ヲ希望シ伊「エ」紛争ヲ助長スルガ如キ行爲ニ出デザルベシトノ態度ヲ以テ應酬スルコトトシタキ考ヘナリ尚現在ノ事態ニ於ケル伊「エ」關係ハ未ダ必スシモ國際法上ノ戰争狀態ニ入レルモノト解スル必要ナキヲ以テ中立宣言等ハ之ヲ差控ヘ事實上前記ノ態度ヲ持シ事態ノ推移ヲ注視スルヲ適當ト認メ又聯盟若クハ英國側ヨリ「アプローチ」セラルルニ先チ我方ヨリ進デ態度ヲ宣明スルコトハ其ノ必要ナキモノト考ヘ居レリ右貴官限リノ御含迄

在歐各大使及壽府ニ轉電アリタシ

米ニ轉電セリ

130　昭和10年10月23日　在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛（電報）

対伊制裁問題への我が方対応が注目を集めている現状に鑑み武器、軍需品の対紛争当事国輸出自粛につき独自の態度を宣明すべき旨意見具申

ジュネーブ　10月23日後発
本省　10月24日前着

第二六一號

往電第二五五號ニ關シ

本問題ニ對スル我國ノ態度ハ一般ヨリ特ニ深甚ノ關心ヲ以テ注視セラレ居ルニ付此ノ機會ニ在佛大使宛貴電第一八〇號前段ノ御趣旨ニ依リ我方獨自ノ態度ヲ宣明セラルルコト

機宜ニ適スヘシト思料ス

右貴電中「紛争ヲ助長スルカ如キ行爲ニ出テサルヘシ」トアルハ武器、軍需品ヲ紛争當事國ニ供給セサル趣旨ヲモ含ムモノカト推察セラルルモ此ノ武器等ニ付テハ他ノ普通商品ト異リ世界平和ノ見地ヨリ兎角ノ論議ヲ生シ易キヲ以テ其ノ輸出禁止ニ關スル特別ノ措置ヲ執ラレサル場合ニ於テモ少ク共我國カ紛争當事國双方ニ對シ之カ輸出ノ許可ヲ與ヘタルコトナク將來モ其ノ方針ヲ持續スル意嚮ナル旨ヲ表明セラレ一般ノ疑惑ヲ豫メ一掃シ我公正ナル態度ヲ明示セラルルコト緊要ナルヘシト存セラル

議長通報ノ趣旨ハ要スルニ情報ノ傳達ニアリテ直接ノ協力招請ニアラサルモ同時ニ非聯盟國側ヨリ何等カノ意思表示アルコトヲ希望シ居ルニ鑑ミ我方態度宣明ノ方法トシテハ右通報ニ對スル回答ノ形式ヲ以テセラルルコト然ルヘキヤニ思ハル

尚若シ非聯盟國タル立場ヨリ聯盟側ニ何等具体的約言ヲ與フルコト面白カラストノ御考察モ有之ニ於テハ武器等禁輸ノ點ニ付テハ書面ニ依ラス口頭ニテ轉達スルコトモ一方法タルヘキカト存ス

本電局長ト協議濟

米、佛、伊ヘ轉電シ英、獨、白、露ヘ暗送セリ

131

昭和10年10月23日　在スウェーデン白鳥(敏夫)公使より広田外務大臣宛(電報)

伊エ紛争の我が方への影響は少なく伊国の行動による不利益は認められないと観測されるため連盟による制裁には参加すべきでない旨意見具申

ストックホルム　10月23日後発
本　省　10月24日前着

第三四號

伊[1]「エ」紛争ニ關シテハ關係地駐在諸官ヨリ的確ナル報告ニ接シ居ラルル次第ナルモ邊陬微官ノ觀測モ時ニ何等カ御參考トナルヘキカト存シ稟申ス

㈠今回ノ紛争ニ當リテ專ラ英國ノ主唱ニ依リ兎ニ角制裁規定ノ適用ヲ見歐洲ノ關スル限リ聯盟未タ亡ヒストノ感ヲ與ヘタルカ如クナルモ之ニ依リテ聯盟精神カ新タナル生命ヲ鼓吹セラレタリト觀ルモノナキノミナラス却テ今回ノ事變ニ伴フ諸般ノ經緯ハ聯盟ナルモノカ畢竟二、三强

國ノ國策遂行ノ具ニ過キサルノ事實ヲ益々暴露シ來リ之ニ加フルニ武力制裁乃至戰時封鎖主義ニ迄至ラサレハ實行ハ期シ難キ處斯ル徹底的處置ハ到底望ムヘカラサレハ事變ノ具體的落着ハ如何ニモアレ聯盟ノ面目ハ改メテ致命的打撃ヲ蒙ル結果トナルヘシ

㈡聯盟主義カ所謂飽滿國ニ屬スル英帝國國内ニ於テ有力ナル分子ノ支持ヲ受ケ來レルハ事實ナルモ今次英國政府ノ執レル態度ハ一ニ聯盟精神ノ擁護ニ出ツトノ同政府言明ハ何人ヲモ納得セシムルニ足ラス偶々自己ノ利益ト聯盟主義トカ一致シ而シテ國内ノ自由分子勞働黨等ノ主張ニ鑑ミ總選擧ニ對スル考慮ニアリテ今回ノ政策ニ出テタルヘキハ一應首肯シ得ル所ナルモ同政府カ一再ナラス聯盟脱退ヲ仄シタルハ嘗テナキコトニシテ頗ル奇異ニ感セラルルノミナラス佛國カ伊國ニ對シ後退ナラヌ迄ニ「コンミツト」スルコトアルヲ萬々承知ノ上海軍援助ヲ三度迄執拗ニ迫レルハ英國外交トシテハ甚タ不似合ナル樣思料セラル伊國ノ野心ヲ抑ヘルコトカ是程迄ニ重要ナリトモ思ハレス目前ノ外交ニ成功ヲ收ムルコトモ必要ニハ相違ナキモ何等カ他ニ説明ヲ求メ度キ氣分ヲ禁シ得ス

之[2]ハ甚タ穿チタル臆測ニシテ英國人ハ天地神明ニ盟ツテソノ誣謗ヲ辯明スルナランモ本使ハ今回ノ英國外交ヲ一貫スル意識的乃至半意識的ノ目標ハ美名ト好辭柄トヲ得テ大陸ニ於ケル係累ヲ清算シ早晩來ルヘキ大陸紛争ニ際シテ自由ノ立場ヲ作ルニ存スルニハアラサルカト思考ス緣モ由緣(ユカリ)モ無キ大陸ノ野ニ再ヒ其ノ子弟ヲシテ屍ヲ曝サシムルコトハ英國民ノ絶對ニ欲セサル所ナルヘク而モ蘇伊ヲ語ラヒ飽迄モ實力ヲ以テ獨逸ノ進出ヲ押ヘントスル佛國ト際限無ク道連スルニ於テハ獨逸再軍備既成事實トナリタル今日英國トシテ遠カラス非常ノ苦境ニ陷ルヘキハ明カニシテ聯盟ニ依ル軍縮絶望ト極マリ平和ハ長ク保ツヘカラストスレハ英國タルモノ國策ノ大轉換ヲ講スルノ要アリ今回ノ事件ハ偶々之カ好機會ヲ提供シタルモノカト思考セラル果シテ然ラハ規約第十六條第三項ノ義務履行ヲ迫リ佛國ヲシテ諾カ否カノ一語ヲ以テ足ルヘキニ二千語ニ亘ル法律論ヲ弄シ種々ノ條件ヲ提示セシメタルコトニ依リテ英國外交ノ目的ハ茲ニ大體達成セラレ今後ノ推移ハ同國ニ取リ寧ロ一路坦々タルモノアルニハアラサルカ

㈢或意味ニ於テ今次事變ノ鍵ヲ握レルハ佛國ニシテ同國ノ聯盟主義カ專ラ現狀維持卽チ對獨策ノ範圍ヲ出テサルハ周知ノ通ナルカ伊「エ」問題ニ關聯スル英國トノ折衝ニ於テ此ノ點ヲ益々天下ニ表白シ覺束ナキ聯盟及捕捉スヘカラサル英國ニ依賴スルコトヲ止メ專ラ同盟主義ニ賴ラントスルノ態度ヲ鮮明ニシタルハ歐洲ノ全政局ヲ頗ル單純化スルト共ニ

今次紛爭ノ歸趨ヲモ推察スルヲ得シムルカ如シ卽チ佛國ニシテ既ニ右ノ方針ナル以上英國トシテ獨力伊國ヲ壓迫スルモノニアラサルハ當初ヨリ同政府ノ聲明セル所ナレハ東阿戰局ノ推移次第ニテ伊國ハ少クモ目的ノ一部ヲ貫徹シ得ヘク聯盟ノ無力ハ再ヒ實證セラレ而シテ其ノ責任ハ專ラ佛國ニ歸セラレ英國ハ暫時大陸關係殊ニ佛國トノ腐レ緣ヲ淸算シテ傳統ノ以夷制夷政策ニ還リ軍備ヲ充實スルト共ニ蘇、伊、佛ノ連縱ニ對シ英、獨接近ノ勢ハ益々助長セラルヘキカト思考ス

四、將來ノ見透ハ兎モアレ現前ノ對伊經濟封鎖モ佛國ノ態度ニ鑑ミ大ナル效果ハ期シ難カルヘク而モ大國間妥協ノ形勢ハ日ヲ追フテ濃化シツツアルモノノ如クナルヲ以テ封鎖期間モ餘リ長キコトハナカルヘク本邦ニ對スル經濟上ノ影響ハ利害共ニ左シタルコト無キヤニ思考セラル我方トシテハ寧ロ事件ニ伴フ政治的進展コソ重視スヘキ儀ニシテ伊國今回ノ擧ハ此ノ見地ヨリシテ何ノ途帝國ノ立場ニ不利益ナル影響ハ無之キノミナラス寧ロ或程度迄伊國ノ成功スルコトヲ望マシト信スル次第ナリ從テ申ス迄モ無ク聯盟ノ經濟封鎖ニ參加スルカ如キハ帝國トシテ飽迄避クヘキ儀ト思料ス

在歐米各大使ヘ暗送セリ

132

昭和10年10月24日　在独国井上臨時代理大使より広田外務大臣宛（電報）

非連盟国である独国は連盟による対伊制裁に参加する可能性は低く火事場泥棒的に対伊貿易を拡大する危険性も認められないとの観測について

ベルリン　10月24日後発
本　省　10月25日前着

第一二九號

瑞西宛貴電第一六號ニ關シ（聯盟ノ對伊制裁ト經濟關係）

伊「エ」紛爭ニ對スル獨逸ノ態度ハ大體往電第一二五號ノ通ニテ其ノ後變化ノ模樣ナキ處

一、聯盟外ニアリ而モ伊國對外貿易上第一位ヲ占ムル獨逸トシテハ內外諸般ノ關係上武器禁輸ヲ宣言スルコトアルヘキモ聯盟側ヨリ特ニ有利ナル條件ヲ以テ勸誘ヲ受ケサル限リ進テ經濟制裁ニ參加スルコトナカルヘシ

二、制裁ニハ參加セサルモ今次紛爭ニ對シ極メテ愼重ナル態度ヲ持スル獨逸トシテ殊ニ其ノ對英關係上此ノ際火事泥的政策ニ出ツルコト先ツナカルヘシト思考ス之ヲ經濟的方面ヨリ見ルモ當國ノ對伊輸出ヲ現在以上ニ增加スル爲ニハ伊國ノ外貨爲替窮乏セル此ノ際結局同國ヨリノ輸入ヲ增加スルカ輸出信用ノ附與ノ外ナキ處前者ハ獨逸ノ輸入制限政策及伊國側ニ於ケル供給力上、後者ハ獨逸現在ノ財政經濟上共ニ相當ノ困難アルヘシ要スルニ獨逸トシテハ伊國輸入額ノ四六、五％ヲ占ムル石炭、同五三％ヲ占ムル機械及同二四、五％ヲ占ムル鐵及鋼製品等ノ對伊供給確保ヲ以テ滿足スヘシ

三、(2) 獨逸ノ伊國品輸入ニ關シテハ伊國人絹輸出ノ二一％ヲ占ムル當國輸入ハ同工業カ火藥製造ニ變更セラルル場合ニハ甚シク減少スヘク又伊國橄欖油及米ノ當國輸入ハ夫々七百萬馬克前後ナルカ右ハ相當減少ノ見込ナリ

四、前記伊國品輸入減少ト本邦產業トノ關係ヲ見ルニ伊國人絹ノ當國輸入減少ノ場合對獨人絹供給國タル佛、白、英ノ供給量增加スヘキハ勿論ナルカ本邦人絹モ多少ハ割込ノ餘地アルヘク次ニ軍需品並ニ食糧品ノ關係上伊國橄欖油ノ供給杜絕若ハ減少スル場合代用品トシテ本邦落花生油及大豆油ノ賣行ヲ多少促進スヘシトノ觀察アリ尙伊國米ノ輸入ハ當國輸入米ノ約一〇％ニ過キサレトモ最大供給國タル印度米ニ比シ價格ノ如何ニ依リテハ進出ノ餘地アルヘク又伊國生絲ノ當國輸入ハ約七百萬馬克、伊國生絲ノ三六％ニ達シ居ル處右ハ大ナル減少ヲ見サルヘキモ伊國品ノ輸出困難ヲ見越シ自然獨生絲ノ價格等ニ影響無キヲ得サルヘシト見ル向アリ要スルニ本項我產品ニ對スル影響ハ餘リ大ニハアラサルヘシ

在歐各大公使、壽府ヘ暗送セリ

133

昭和10年10月24日　在仏国佐藤大使より広田外務大臣宛（電報）

対伊制裁参加国は不参加国が漁夫の利を占めることを警戒中であるので我が方は各国において邦品排撃が起こらぬよう注意すべき旨意見具申

パリ　10月24日後発
本　省　10月25日前着

第三四二號

貴電合第七五三號及瑞西宛貴電第一六號ニ關シ[1]

一、對伊制裁殊ニ經濟制裁ニ付テハ從來當國内右黨方面ハ言フ迄モ無ク中央諸派ニアリテモ種々難色アリシノミナラス里昂、馬耳塞等各地商業會議所其ノ他佛國輸出工業聯合會等當業者側ヨリモ相當强硬ナル反對アリ又後述ノ如キ制裁實行ニ依リ佛國ノ蒙ルヘキ損失輕視スルヲ得サルヘキモ佛國政府トシテハ大局上今般ノ壽府決定ニ贊成セルモノト觀察セラル

二、本件制裁ニ依リ佛國ノ蒙ルヘキ影響ニ關シ佛伊兩國最近三箇年ノ貿易關係ヲ見ルニ一九三二年及三三年ニ於テハ佛國ハ入超ノ立場ニアリシカ一九三四年ニハ一轉シテ出超國トナリ本年モ七月迄ノ形勢ハ依然佛國ノ出超ナリ而シテ一九三四年ニ於テ伊國ヘノ輸出ハ佛國ノ對外輸出總額ノ四%五ニ當リ同年ノ伊國ヨリノ輸入ハ佛國ノ外國ヨリノ輸入總額ノ二%八ニ當ルニ過キサルモ對外貿易ニ於テ佛國カ出超トナリ居ルハ瑞西、白耳義及伊國ノ三國ノミナル現狀ニ照ラシ本件制裁ノ影響ハ重大意義ヲ有スヘク左ノ諸點ハ特ニ注意ニ値スヘシ

(イ)[2] 大體聯盟ノ決定シタル武器及戰爭材料等ノ對伊輸出禁止表ニ依ルニ一九三四年ニ於テ佛國ハ伊國ニ對シ（單位一、〇〇〇法）飛行機及其ノ部分品（一、一四九）發動機（二〇、一六九）短艇（一五、二二〇）鐵及鋼鐵（九四、一九三）鑄鐵（三、七三八）銅及鐵以外ノ鑛物（七一〇）總計一三五、一七九、〇〇〇法ヲ輸出シ居リ右ハ佛國ノ對伊輸出總額ノ約二割九分ニ該當スルヲ以テ之カ禁輸ハ佛國産業ニ取リ重大ナル痛手ナリ

(ロ) 次ニ伊國品ノ輸入禁止ニ關シ伊國品ノ一九三二年乃至三四年ノ平均輸入ハ果實、繭（cocons et boure de soie）乾酪、麻（chanvre）硫黄ノ順位ナル處果實、乾酪及硫黄ハ西班牙、葡萄牙其ノ他ノ國ヨリノ輸入ヲ以テ代用シ得ヘキヲ以テ大體非常ナル不都合ハ避ケ得ラルル模様ナルモ麻及麻屑ハ昨年ノ如キ輸入全額ノ九割强迄伊國ニ仰キ居リ又繭ニ付テモ約三割ヲ伊國品ニ俟ツ狀態ナルヲ以テ是等ノ代用ハ相當困難ナルヘシ

(ハ)[3] 佛國海運界ハ近年不況續キニシテ最近ニ於テハ印度支那線、濠州線及北地中海線ノ改廢說サヘ傳ヘラレ居ル位ナル處北地中海線ノ不振ハ主トシテ伊國海運業ノ壓迫ニ原因スルモノナルカ對伊制裁ニ基ク地中海貿易ノ萎靡ニ伴ヒ佛國海運ノ不振ハ益々深刻化スヘク佛國海運全般ノ重大問題タルヘシ（右ノ事情ニモ鑑ミ馬耳塞商業會議所ハ冒頭所述ノ如ク逸早ク對伊制裁反對ノ態度ヲ決シタル次第ナリ）

三、[4] 制裁ノ本邦通商ニ與フル影響ニ關シテハ

(イ) 佛國品ニ代リ伊國ニ輸出シ得ヘキ本邦品トシテ前記禁制品中ニハ取立テテ論スヘキモノナキノミナラス伊國現在ノ支拂能力ニ顧ミ右實際上問題トナラサルヘシ

(ロ) 從來ノ伊國品ニ代リ佛國ニ輸出シ得ヘキ本邦品トシテハ前（記）繭竝ニ生絲ヲ擧ケ得ヘク本邦品ト伊國品トハ品質ヲ異ニスルコト勿論ナルモ相當進出ノ見込アルヘシ

四、尚制裁參加國ハ不參加國カ漁夫ノ利ヲ占メサル樣警戒シ何等協同方策ニ出テントノ氣勢サヘアリタルコト壽府ニ於ケル相互援助ニ關スル討議ノ經過ニ依リ明カナルヲ以テ我方トシテハ從來各國ノ邦品排擊ノ趨勢ニ拍車ヲ掛ケシムルカ如キ結果トナラサル樣特ニ考慮ヲ拂フコト肝要ナルヘシト思考セラル

在歐各大公使ヘ暗送セリ

134

昭和10年10月24日　在ベルギー有田大使より広田外務大臣宛（電報）

連盟による対伊制裁への不参加の結果我が方対伊貿易が拡大することは同参加国において邦品排撃の口実を与える危険性がある旨につき通報

ブリュッセル　10月24日後発
本　省　10月25日前着

第五八號

貴電合第七五三號ニ關シ（聯盟ノ對伊制裁ト經濟關係）

一、制裁措置ニ付テハ右翼及實業界ノ一部ニ反對氣分濃厚ナルモ政府ハ規約擁護ノ方針ヲ持シ輿論ノ大半モ之ヲ支持

シツツアルヲ以テ結局白國ハ英佛ニ從隨シ壽府ノ決定ヲ實施スヘシ

二、白伊貿易「バランス」ハ白國ニ有利ナルモ最近白國ハ支拂ヲ受ケ居ラサル實情ナリトノコトナレハ對伊輸出ノ減少ハ制裁期間長カラサル限リ一部輿論ノ喧傳スル程大ナル打擊ヲ白國ニ與ヘストノ見込

三、伊ヨリ白ニ輸入セラレタル商品ノ代リトシテ本邦品ヲ輸入セシムルコトハ考ヘ得ルモ制裁ヲ行フ諸國ハ漸次相互扶助ノ策ヲ講スヘキヲ以テ實際白國ニ輸入セシメ得ルモノハ他ノ聯盟國ヨリ供給ヲ受ケ難キ特殊ノモノ例ヘハ人絹、絹織物等ニ限ラルルコトトナルニアラサルカ又本邦ノ對伊輸出モ增加セシメ得ル理ナルモ其ノ遣方如何ニ依リテハ左ラヌダニ日本品ノ進出ニ惱ミ居ル制裁參加國ニ對シ日本品壓迫ノ口實ヲ與ヘ是等ノ諸國ニ於テ割當削減其ノ他ノ不利ヲ受クルコトナキヲ保セサルヘシ

在歐各大公使ヘ暗送セリ

〜〜〜

の影響につき諸方面より聞込みについて

ローマ　10月26日前発
本　省　10月26日後着

第一四八號（極秘）

佛宛貴電第一八〇號ニ關シ（伊「エ」紛爭ニ關スル我方態度ノ件）[1]

當地ニテ各方面ト接觸ノ際得タル印象御參考迄ニ

一、第十六條ノ適用ハ伊ノ如キ强國ニ對シテハ紛爭ヲ解決乃至局限スルヨリモ擴大スルノ惧アルコト

二、第十六條ハ聯盟内部ノ内規トシテ便宜各項ヲ分割シテ考察スルハ妨ケ無キモ本來第一乃至第三項ヲ一體トシテ解釋スヘキモノナレハ制裁カ單ナル經濟及金融上ニ限定セラルル限リ聯盟各國ト伊トノ間ニ戰爭狀態無シトノ見解ハ必スシモ正確ナラス

三、聯盟ノ制裁ニ付協力スル非聯盟國ハ前記ノ理由ニ依リ遂ニハ戰爭ニ引込マルル惧アルコトヲ覺悟スルノ要アルコト

四、第十六條カ第十五條等ノ繼續ナルニ右ノ場合非聯盟國ハ制裁ノミニ協力シ平和的解決ヨリ除外セラルルコト

五、第十五條第三項ニ付テハ規約ノ保障ヲ受クル聯盟各國ノ間ニ於テサヘ疑義アル程ナレハ非聯盟國ノ立場ハ一層機微ナルヘキコト

六、日本ハ聯盟脱退後少クトモ政狀（collective system）ニハ不參加ノ態度ヲ執リ殊ニ聯盟カ伊「エ」紛爭ニ對シ日支事件ニ對スルト大同小異ノ遣口ニ出テ又蘇聯代表ノ如キハ此ノ機會ニ乘シ日獨ニ對シ敵本的言動ニ出テタレハ聯盟ノ制裁ニ日本ノ協力ヲ求ムルハ困難ナルヘキコト[2]

七、米ノ方策ハ理窟ハ兎モ角實際上ハ主トシテ伊ヲ壓迫シ「エ」ニハ適用無キ結果トナリ嚴正中立ノ趣旨ニ反スルコト

八、非聯盟國ト伊「エ」兩國トノ關係ハ國際法ノ規定ニ準據スヘク從テ非聯盟國ニ於テ伊「エ」兩國ヲ交戰國ト認メタル場合交戰國ヨリ不法行爲ヲ加ヘラルルトキ之ニ對シ中立國タル權利ヲ主張スヘキハ勿論ナルモ未タ斯ル事實無キニ何等特ニ條約上ノ義務ヲ負擔セサルニ拘ラス濫ニ國際法カ定ムル範圍ヲ逸脱スルカ如キハ愼ムヘキコト

九、聯盟制裁ノ裏面ニハ各國ニ取リ幾多複雜ナル事由伏在シ佛、西班牙、土耳古ノ如キハ早クモ地中海ニ於ケル英ノ勢力增大ヲ警戒シ初メタル次第ニモアリ我方トシテモ英伊ノ角逐ト東方ニ對スル英ノ勢力消長トノ間ニハ我將來ノ發展上間接乍ラ考慮ヲ要スルモノアリ伊ノ國民性カ浮薄ニシテ間々仇ヲ以テ恩ニ報ユルコトアレハ此ノ際伊ニ好意ヲ表スルノ要ハ認メサルモ我方ニ於テ何等具体的措置ヲ決定セラルルニ當リテハ貴電ノ御趣旨カ達セラルル樣實際ニ即スル愼重ナル攻究肝要ナリト思考セラル

土ヲ除ク在歐各大使、壽府、米ヘ暗送セリ

〜〜〜

ハ今般制定ノ中立法中ノ「イムプルメンツ、オブ、ウオー」ノ範圍ヲ擴張シテ軍需品ノ材料トナルヘキ物品例ヘハ棉花、鐵屑、銅、石油等ヲモ包含セシムル途モアリ得ヘク右ハ米伊通商條約ニモ牴觸セサルモノト思考セラル（同條約第一三號及第一五號參照）但シ原料品ノ禁輸ハ國内ニモ相當重大ナル論議ヲ惹起スヘク現ニ貿易業者カ右ニ對シ强キ反對ヲ有スルコトハ往電第四三六號所報ノ通ナルノミナラス中立法制定ノ際ニ於ケル議會ノ討議ニ徵スルモ議會トシテハ「イムプルメンツ、オブ、ウオー」ハ之ヲ兵器、彈藥ニ限定シ原料品ニ及ホサシメサル意嚮ナリシコト明瞭ナリ（拙信第四六七號參照）此ノ點ニ關シ前國務長官「スチムソン」ノ如キハ頻リニ右「イムプルメンツ、オブ、ウオー」ノ品目ヲ擴張シ聯盟ノ制裁ニ參加スヘキ旨主張シ居ルモ（拙信第五五七號及第五七七號參照）現政府カ果シテ之ヲ斷行シ得ヘキヤ否ヤハ甚タ疑問ニシテ假ニ之ヲ實行スルトスルモ相當事態ノ推移ヲ觀望シタル上ノコトナルヘク差當リハ取引不奬勵ノ趣旨ヲ再聲明スル等政治的「ジエスチユアー」ニ依リ當業者ノ自發的措置ニ訴フルニ止ムルニアラスヤト觀測セラル

二、[2] 制裁參加ノ米國貿易ニ及ホス影響ニ付先ツ米伊貿易ノ現狀ヲ見ルニ商務省統計ニ依レハ本年一月以來八箇月ノ對伊輸出額累計四千四百萬弗ニシテ前年同期ノ輸出額ニ比シ約四百萬弗ノ增加ナルカ九月ニ於ケル軍需品原料品ノ對伊輸出ハ銅約五百六十八萬封度（九月ノ累計約六千百三十萬八千封度）、鐵屑約四萬四千噸（累計約二十七萬八千噸）、「リンター」約七十三萬六千封度（累計約六百四十八萬四千封度）、棉花約千六百二十四萬封度（累計約一億六千五百四萬四千封度）、石油約六萬一千「バレル」（累計未詳）ニ達シ何レモ前年同期ニ比シ激增シ居レリ中立（法）實施後ニ於ケル統計ハ未タ判明セサルモ該法ノ實施取引不奬勵ノ聲明及交戰國船舶ニ依ル旅行差控勸告令カ對伊輸出ニ對シ格別ノ影響無カリシコト往電第四四五號所報ノ通ナリ（右往電ノ三、「スタンダード、オイル」及「ソコニー、ヴアクーチエ」兩社ニ對スル外國石油會社側ヨリノ對伊石油輸出停止ノ交渉ニ付テハ其ノ後兩社ニ於テ之ヲ拒否シタル趣報セラレ居レリ）而シテ右對伊輸出額ハ米國總輸出額ノ僅々三分四厘ニ過キサル事實ヨリ推シ現政府カ聯盟ニ呼應シテ右

原料品ノ禁輸ヲ敢行シ之カ輸出全ク消滅スル場合ヲ想像スルモ米國ノ經濟通商上ノ影響ハ左シテ重大トハ認メラレス（又禁輸敢行ノ場合ニモ墺洪等第三國經由ニテ輸出セラルルコトモ考ヘ得ヘシ）

尙[3] 米國政府カ制裁ニ參加セス單ニ取引不奬勵再聲明ノ如キ措置ヲ執ルニ止マル場合ニハ對伊輸出ニ對スル影響ノ更ニ僅少ナルヘキハ勿論ニシテ唯伊國側ノ信用設定不可能ニシテ取引カ現金主義ニ限定セラルル關係上伊國ノ買付資金ノ缺乏ニ從ヒ輸出ノ自ラ減少スルハ免レサル所ナルヘシ（物々交換ニ依ル貿易モ豫想セラレサルニアラサルモ伊國ヨリノ輸入品中ニハ米國ニ取リ重要品目無キヲ以テ右ハ實行ノ見込ナシ）

更ニ伊國ヨリノ輸入ニ付テハ本年一月乃至八月ノ輸入額累計約二千百萬弗ニシテ前年度ノ同期ニ比シ約二百萬弗ノ減少ナルカ元來伊國ヨリノ輸入品中ニハ前記ノ如ク米國トシテ專ラ右ニ賴ラサルヲ得サルカ如キ重要商品無キヲ以テ法規上輸入禁止ヲ爲シ得ルトシテモ米國ニ取リ著シキ苦痛トハナラサルヘシ唯法規ノ關係上一般輸入禁止ヲ許サレサルコト前述ノ通ナルニ鑑ミ制裁參加ノ場合ニモ政府ニ於テ伊國品ノ輸入不奬勵ノ如キ聲明ヲ發スル位ニ止マルヘク其ノ際輸入ハ益々減少スルヲ免レサルヘシ

三、之ヲ要スルニ米國カ單ナル制裁手段ニ出ツルトスルモ伊「エ」兩國紛爭カ歐洲ニ波及セサル限リ其ノ米國經濟及通商ノ基調ニ及ホスカ如キ重大ナル影響ナカルヘク從テ其ノ本邦對米貿易ニ及ホス影響モ亦大ナルモノアリト認メラレス寧ロ伊國品ノ米國輸入減少ハ米國市場ノ景氣ニ依リテハ之ニ代ルヘキ本邦品（例ヘハ生絲、帽子等）進出ノ機會ヲ見出シ得ヘキ利益ヲ伴フコトアルヘシ

四、尙本件制裁問題ニ對シ帝國ノ執ルヘキ態度ニ付テハ政府ニ於テ折角御研究中ト存セラルル處試ニ本邦通商上ノ影響ヲモ考慮シ在紐育本邦實業家連ノ意見ヲモ夫レトナク徵シタルカ此ノ際帝國トシテハ特ニ積極的措置ニ出ツルコトナク當分形勢ヲ靜觀スルノ態度ヲ持スルコト最モ得策ナリト爲スニ一致シ居ルモノノ如ク右ハ斯ル政策ニ依リ現下ノ時局ニ乘シ本邦通商上ノ利益ヲ收メ得ヘシト爲ス打算ニ立脚シ居ルモノナルヘキモ當方面ニ於ケル本邦當業者ノ見方トシテ御參考迄ニ併セ報告ス

在歐各大公使及壽府ニ暗送セリ

〜〜〜

貴電第二六一號ニ關シ
今次ノ議長通告ハ正式ノ協力招請ニ非スシテ何等我方ノ回答ヲ要求シ居ラサルニ拘ラス此ノ際我方ヨリ進ンテ聯盟ノ對伊裁決ヲ是認シ聯盟ノ制裁ヲ援助スルモノト解セラルヽカ如キ通報ヲ爲スコトハ帝國カ非聯盟國トシテ聯盟ノ政治的活動ニハ一切關與セザル根本方針ニモ戻ルベク帝國政府トシテハ現在ノ通伊對「エ」及聯盟對伊ノ何レニモ偏セザル獨自ノ態度ヲ持スルヲ以テ最公正ナル態度ナリト思料シ居ル次第ナリ加之聯盟ノ所謂經濟的制裁ニ對シテハ歐洲諸國ニ於テサヘ之カ實行ヲ肯ゼザルモノアリ果シテ一般的ニ有效ナル實施ヲ見ルベキヤ否ヤ大ニ疑アル一方制裁ノ全般的發動ニ先チ目下關係國間ニ折角和協工作進行中ナル模樣ニモアリ旁々我方ヨリ何等意見ヲ表示スルノ時期ニ非ズト思考ス就テハ今次議長通告ハ之ヲ默過スルコトト致スベキニ付右御含置アリ度ク尚貴地ニ於ケル特殊ノ空氣ニ鑑ミ貴官ト接觸スル者ノ中ニハ或ハ故意ニ我方ノ態度ニ對シ疑惑ヲ挾ムカ如キ向アルヤモ測ラレザル處右ニ對シテハ可然ク我方ノ公正ナル態度ヲ說明シ(公ノ聲明等ハ差控ラレ度シ)其ノ曲解ヲ釋クニ努メラレ度シ

在歐各大公使ヘ轉電アリ度シ

140

昭和10年11月19日　在伊国杉村大使より広田外務大臣宛(電報)

独国および我が国は自給自足困難につき対伊制裁長期化の場合には原料確保のため適当な手段を講ずべきにつき在伊国独国大使と意見交換について

ローマ　11月19日後発
本　省　11月20日前着

第一五九號

一、[1] 聯盟ノ經濟制裁發動ニ對シ當國一般ハ案外平靜ナルカ右ハ本來陽氣ナ國民性ノ爲ナルヘク唯識者ハ國難ノ迫ルヲ直覺シ平生「フアシスト」黨ニ與セサル者迄モ「ムツソリーニ」ヲ中心トシテ擧國一致飽迄戰ハント決意ス

「ム」ハ物資ノ缺乏ヨリモ國民ノ意氣沮喪ヲ惧レ「フアシスト」大評議會其ノ他ノ機會ヲ利用シテ盛ニ民心ヲ鼓舞シ内ニ節制ヲ强要シ外ニ對シテハ各種ノ專賣及輸入ノ統制（往電第一五五號）ヲ行ヒ戰爭ノ遂行及國民生活ノ擁護ニ遺漏ナキヲ期ス

二、經濟統制ノ結果制裁國ノ對伊貿易ハ自ラ激減シ世界不況ノ此ノ際經濟上各國ニ取リ相當ノ打擊トナルヘキニ加ヘ伊ハ英、佛、蘇ノミニテモ月々千五、六百萬圓ノ輸入超過アリ又延滯債務一億五千萬圓支拂延期ノ口實ヲ得タレハ制裁國ノ受クル痛手輕カラス

獨、墺、洪、瑞西カ對伊貿易ニ何等ノ拘束ヲ加ヘサルコト、獨大使ノ内話ニ依レハ例ヘハ石油ノ如キ蘇聯邦及羅馬尼ハ伊ニ對シ内々賣込ノ申入ヲ爲シ居ルコト、其ノ他ノ諸國中ニモ聯盟ノ決議ニ拘ラス首鼠兩端ヲ持スルモノ多キコト、海上ハ封鎖ナケレハ密輸出入ニ支障ナキコト等ニ鑑ミ伊ハ之カ對策ニ相當ノ融通性ヲ帶ハシメ例ヘハ制裁國ノ伊國品非買同盟ニ對シテモ必スシモ非買ヲ以テ對抗セントセス必用品ナラハ制裁國ヨリノ輸入ト雖敢テ妨ケストノ態度ヲ執ル唯石油、銅、鐵、貨物自動車ノ對伊及「エ」輸出ニ對スル「ハル」長官ノ最近ノ警告ハ伊ニ大ナル衝動ヲ與ヘタルモ北米ニ於ケル無數ノ小石油業者ニ對スル統制ノ困難ナルニモ顧ミ果シテ效果アリヤ疑ハシトセラル

三、[2] 制裁ニ對スル伊ノ十一月十一日附抗議書(貴電第七一號)ハ一見手前勝手ノ議論ヲ繰返スニ過キサルカ如キモ十月二日ノ「ム」ノ宣言カ經濟制裁ニ對シ消極的ニ國民ニ自制ヲ求メタルニ反シ制裁國ノ一々ニ對シ積極的ニ逆襲スル態度ニ出ツルモノナレハ中歐及巴爾幹ノ諸小國ノ如キハ制裁カ「ム」ヲシテ東阿遠征ヲ抛棄セシメサルトキ英伊ノ抗爭ハ白熱化シテ遂ニ戰爭ヲ勃發スルニ至ルヘキヲ惧レ彼等カ危險ヲ冒シテ制裁ニ加ハリタルハ他日外敵ノ侵入ニ遭フトキ自衛ノ用ニ供セントシタル爲ナリシカ歐洲ノ戰爭ニハ軍事的制裁ナラサレハ用ヲ爲サス從テ今次ノ經濟的制裁ハ先例トシテ役立テ得サルノミナラス英カ今回ノ如キ意氣込ヲ以テ大陸ノ戰爭ニ乘出スヘキヤ疑ハシケレハ愈制裁實行ノ間際トナリ何レモ甚シキ不安ニ襲ハルルモノノ如シ

次ニ聯盟ノ制裁ニ留保シタル諸國ノ立場ニ付墺公使ハ「佛ノ陸軍カ伊ヲ見棄テサル限リ墺トシテハ伊ニ賴ルノ外無シ國際政局カ動搖スル今日大國ノ政府モ政黨モ當ニナラス英ノ外交ト雖英獨海軍協定ヤ聯盟五人委員會ノ提案漏洩ノ經緯ニ顧ミ最早信用シ難シ當今信賴シ得ルハ佛ノ陸軍ト英ノ海軍及「シテイー」アルノミ而シテ後者ハ

中歐ノ安定ニハ力無シ」ト語ル

尚伊ノ上下ハ制裁ノ元兇ナリトシ英ヲ憎ムコト甚シキモ佛ニ對スル信頼モ制裁ト共ニ急ニ減退シ佛大使ノ如キハ前途ヲ憂慮シ内々制裁實行ノ延期ニ奔走シタルモノノ如ク唯佛ノ出征軍人及貿易業者カ盛ニ反對運動ヲ爲スヲ見テ伊ハ僅ニ慰ム

四(3)

經濟制裁ニ依リ日、獨ノ如キハ一見奇利ヲ僥倖シ得ルカ如キモ伊ハ極力輸入ヲ制限スレハ絶對必要品ノ外ハ賣込ミ難ク又制裁國ニ對スル伊ノ輸出ハ近々各方面トモ一樣ニ激減ノ趨勢ニアレハ各國カ爭ツテ其ノ販路ヲ奪フ程ノコトモ無カルヘク況シテ伊ハ例ヘハ生絲ノ如キ日本品以下ノ廉價ニテ賣出サント計畫シツツアレハ此ノ機會ニ産業ノ自力更生ヲ計リ得ルヤモ知レス然ルニ他面制裁ノ發動ニ依リ伊ト制裁國トノ通商條約ハ事實上無效トナリ延イテ各國ノ通商政策ニ鎖國的色彩ヲ濃厚ナラシメ世界不況ヲ益々深刻ナラシムルニ至ルヘキハ明カニテ天然資源ニ乏シキ國ハ不合理ナル自給自足政策ヲ執ルノ已ム無キニ會スルト共ニ英ノ如キ大國ハ口ニコソ原料分配ノ公平ヲ說クモ之ヲ以テ資源ノ貧弱ナル諸國ヲ制壓スルノ具ニ供スルノ大勢ヲ誘致スヘク從テ外國貿易ヲ生命トスル日、獨ノ立場ハ極メテ困難トナリ其ノ損失決シテ火事泥的一時ノ利益ニ比スヘカラス故ニ制裁ニシテ長期ニ亘ル場合自衛上適當ノ供給手段ヲ講スヘキハ當然ニシテ右ニ對シテハ獨大使モ同感ノ意ヲ表シ「獨ハ伊「エ」紛爭乃至聯盟ノ行動ニハ一切無關心ナルモ自國ノ立場ト利益トヲ擁護スル爲ニハ遠慮無ク制裁國ニ抗議スル方針ニテ現ニ英カ未タ交戰國ニモナラサルニ獨品ニ對シ原産地證明ヲ要求シタレハ斯ル權利無シトテ直ニ拒絶セル次第ナリ制裁カ永引キ國際取引カ甚シク阻害セラルルニ至ラハ適當ノ機會ニ何等カ斷然タル措置ヲ執ラサルヘカラス」ト語ル

土ヲ除ク在歐各大使、壽府ヘ郵報セリ

〜〜〜

142　昭和10年12月4日　広田外務大臣より在仏国佐藤大使宛（電報）

在エチオピア国公使就任予定の鈴木書記官に対伊制裁および来日したエチオピア特使からの各種要請への我が方対応振り通報

本　省　12月4日後7時30分発

第二〇九號（極秘）

貴電第三九九號ノ四ニ關シ

鈴木書記官ヘ

紛亂ノ地ヘ急遽御赴任ノ儀御苦勞ニ存スル處伊「エ」紛爭ハ一般國際政局ノミナラス我方ニ對シテモ間接ノ影響少ラス一方本件紛爭ニ對スル帝國ノ態度ハ相當世上ノ注目ヲ惹キ居リ愼重ノ注意ヲ要スル次第ナルニヨリ貴官ハ左記諸項御含ノ上機宜ニ合致スル樣行動セラレタシ

一、帝國ノ伊「エ」紛爭ニ對スル根本的態度ニ就テハ我方ハ右兩國何レトモ友好關係ニアルヲ以テ右友邦ノ紛爭カ可成速ニ圓滿解決センコトヲ希望スルノ趣旨ヲ以テ適宜說明セラルヘシ

二、聯盟ノ對伊制裁ニ對スル帝國政府ノ態度ハ佛宛往電第一〇八(ニ)號、壽府宛往電第一〇四號ノ通ナリ

三、本年九月下旬 Daba Birrou ナルモノ「エ」國ヨリ在大阪同國名譽領事館附トシテ來朝シ(イ)陸軍將校及技術官(ロ)武器(ハ)醫藥材料及醫師(ニ)借款供給方內密ニ願出テタルニ付陸軍側等トモ打合セ左ノ趣旨ニヨリ取計置ケリ

陸軍將校等ニ付テハ目下ノ事態ニ於テ應シ得ヘキ限ニアラス武器ハ聯盟側ニ於テモ輸出解禁シ居リ我方トシテモ若干ハ需メニ應シ得ヘキモ我方武器ハ製作及運送ノ關係上相當高價トナルノミナラス「エ」國側ニ現金支拂ノ用意ナキ以上問題トナラス（尙他國ヨリ我國ノ對「エ」武器輸出ニ付「サウンド」シ來ルコトアルヘキ處今日迄日本ヨリ兩當事國ニ對シ武器ノ輸出セラレタル事實ナキ旨ヲ以テ可然應酬セラレ度シ）借款ハ擔保其他ノ條件モ分明ナラス且國際關係ヲ顧慮スル要アルハ勿論我國ニ同方面迄モ資金ヲ融通スル余力ナシ醫藥材料及醫師ニ關シテハ赤十字社等關係ノ向ヘ通達シ置キタル處醫師ハ遠隔且紛亂ノ巷ヘ赴ク爲希望者ナカリシモ醫藥材料ハ赤十字國際委員會ノ各國赤十字社ニ對スル提議ニ從ヒ日本赤十字社ヨリ「エ」國赤十字社ニ對シ不取敢一萬人分ノ繃帶材料ヲ寄贈シタリ

四、本件紛爭ニ對シ本邦輿論ハ當初「エ」國ニ對シ多大ノ國(ママ)情ヲ示シタルモ其後紛爭カ聯盟乃至英國對伊國ノ紛爭ノ貌ヲ採ルニ及ヒ漸次伊「エ」何レニモ偏セサル靜觀的態度ニ移レリ

本電ヲ內密ノ參考トシテ伊ニ轉電アリタシ

143　昭和10年12月14日　在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛（電報）

英仏新提案につき英国側の大幅譲歩の背景に関する連盟事務局等からの情報および同新提案に対する各国の対応振りについて

ジュネーブ　12月14日後発
本　省　12月14日夜着

第三一九號

往電第三一八號ニ關シ[1]

一、佛首相十二日朝當地着後直ニ十八人委員會議長ニ英佛新提案ヲ內示シ石油問題審査延期方ニ付打合セヲ爲シ又右新提案ノ審査ヲ五人委員會ニ附託方ニ付「マダリアガ」ノ同意ヲ得タル土耳古、波蘭兩代表ヨリ同委員會ノ任務ハ既ニ終了セル故新事態ニ付理事會附議ヲ要ストノ抗議ニ會ヒ英代表トモ協議ノ上終ニ理事會附議ニ決セル次第ニシテ其ノ結果同日午後ノ十八人委員會ハ冒頭往電ノ通リ簡單ニ經過セルカ來週水曜日迄ニハ兩當事國ノ意嚮モ判明スヘシトノ見込ニテ十八日午後理事會開催ニ決セル始末ナリ（往電第三一五號十七日開催ノ豫定ハ同日下院討議ニ參加スヘキ佛首相ノ都合ニテ變更サレタル如シ）

二、「ラヴアール」、「イーデン」兩代表十三日夕一旦歸國十八日朝再ヒ來壽ノ筈ナルカ當日迄ニハ「リトヴイノフ」、「チチユレスコ」、「ルスツアラス」、「ベツク」等モ來壽ノ豫定ニテ理事會討議ハ波瀾多キ見込ノ處英佛側ニテハ五人委員會ヲ稍擴張セル七、八ケ國ヨリ成ル特別委員會ニ新提案ノ審査ヲ附託シ問題ノ紛糾ヲ避ケントノ腹案ヲ有スル模樣ナリ羅馬ニテハ英佛案ヲ植民地及軍部關係ノ專門家ニ審査セシメ對案提出ノ準備ヲ爲スラシク從テ「ム」首相ハ兩三日中ニ主義上右ヲ交涉ノ基礎ト爲スニ異義ナキ旨ヲ回示スヘシト傳ヘ又其ノ場合ニハ「ネグス」ノ態度如何ニ拘ラス（一應ハ侵略國トシテ領土擴張

ニ反對スル趣旨ノ宣傳ヲ爲シ居ルモ正式回答ハ伊國及聯盟側ノ態度ヲ見テ後ニ決スルナラント傳ヘラル）佛首相ノ發（言）ニ依リ石油等ノ禁輸問題ハ一時立消ヘトナルヘシト觀測セラル

三、(2) 事務局及記者團方面ノ批評ヲ綜合スルニ英國カ何故最近突然大讓歩ヲ爲シタルヤニ關シ

(イ)埃及ニ於ケル政情ノ不安カ案外根據强ク地中海及紅海方面ニ於テ對伊關係萬一惡化セハ事態益々紛糾ノ惧アルコト

(ロ)更ニ印度及支那方面ニ對スル立場ヨリスルモ此ノ上長ク阿弗利加問題ノミニ沒頭スルハ不利ニシテ是等各地方ニ於ケル勢力保持上本件ノ解決ヲ促進スルノ要アルコト

(ハ)愈石油其ノ他ノ禁輸ヲ實行セハ制裁參加國ノ經濟的打擊激增シ其ノ間獨逸ノ國勢充實シ「アンシユルス」問題ノ再燃ヲ初メトシ大陸諸國間ノ均勢ニ影響ヲ來スノ憂アルコトニ留意セルノミナラス

(ニ)最初ヨリ對伊開戰ヲ欲セス伊國ノ全滅ヲ企圖セルニアラサル以上或程度ニテ伊國ト折合ハサレハ將來永久ニ對伊關係ヲ惡化シ佛國ノミ獨リ伊國ノ友好國トナリ自ラ不利ノ地位ニ陷ル危險アル故ニ伊國虐待モ此ノ邊ニ止ムルカ得策ナリトノ英國一流ノ實際的見地ヨリ今度ノ措置ニ出テタルモノト見ルモノ多ク同時ニ或ハ英國自ラ讓歩シテ伊ニ好意ヲ示スモ領土割讓ニハ「ネグス」及聯盟側ニ難色アルヘキヲ豫見シ唯之ヲ機會ニ石油等ノ禁止ノ無期延期ヲ實現セシメ（新提案不成立ナリシナラハ十八人委員（會）ニテハ制裁强化ハ避ケ難キ形勢ナリシコト既報ノ如シ）以テ對伊關係ノ惡化ヲ防キタルモノナリ

トノ說スラアリ其ノ眞相ニ付疑問多シ

四、(3) 聯盟側殊ニ諸小國ハ一般ニ英佛提案カ規約ノ精神ニ反シ侵略國ニ領土擴張ヲ許ス結果集團的安全保障制度ノ將來ヲ危殆ナラシムルヲ惧レ其ノ儘之ヲ受諾シ得ス殊ニ英佛間ニ何等密約ノ存在無キヤヲ疑ヒ大國ノ横暴ヲ怨ムノ傾向アレトモ他面是等ノ諸國中ニハ既ニ制裁實施ニ伴フ經濟的犧牲ニ苦痛ヲ感シ内々其ノ强化ヲ好マス和協促進ヲ希望セル向多キ故聯盟主義ニ依リ正面ヨリ反對シ得ルハ伊國ト直接ノ經濟關係薄キ北歐諸國等ニ止マル模樣ナリ

尙根本問題ノ審議ヲ理事會ニ附託スヘシトノ波蘭ノ主張ハ先年四國協約成立當時之ヲ飽迄反對セル大國專横制止運動ノ再現ト見ルヘク英佛ノ策動ヲ聯盟ノ機構内ニ引付クル爲ナリト觀測スルモノ多シ

五、從來本紛爭ニ關シ聯盟主義擁護ノ急先鋒ヲ以テ自他共ニ許セル「リトヴイノフ」ノ態度如何ニ付テモ觀測區々タル處彼ハ行懸上主義トシテ英佛案ノ骨子ニ一應反對スヘキモ

(イ)蘇聯トシテハ佛蘇協定ノ將來ニ付不安ヲ感シ殊ニ最近佛首相カ獨佛接近ヲ畫策中トノ風評專ラナル折柄此ノ際同首相ノ希望ヲ全然無視シ難キ立場ニアルコト（佛國記者ノ聞込）

(ロ)反共運動ヲ標榜セル北支自治問題ニ關聯シ本件ノ解決遷延シ英國カ極東ノ事態ヲ顧ミルノ遑無キニ於テハ英ヲシテ日本ノ支那進出ヲ制肘セシメ得サル故或程度迄同方面ニ於ケル英國ノ勢力失墜ヲ避ケシメントノ魂膽アルコト（波蘭代表内話）

等ノ事情ニ依リ實際ニハ形勢次第ニテ多少緩和的態度ニ出ツルヤモ知レスト爲スモノアリテ一般ノ注意ヲ惹キ居ル模樣ナリ

在歐各大使、米へ暗送セリ

144

昭和10年12月16日　在伊国杉村大使より広田外務大臣宛（電報）

英仏新提案において英仏伊三国の協力が重視された背景には英国側の中国における優位を我が方に奪われることへの危惧があるとの観測について

ローマ　12月16日後発
本　省　12月17日前着

第一七九號（極秘）

一、(1) 巴里會談ニ於テ英外相カ從來ノ態度ヲ一變シテ佛首相ノ主張ニ歩寄リタルハ佛側ノ意外トスル所ナリシカ（往電第一七五號ノ二參照）右ハ英既得ノ地位ヲ傷ツケスシテ妥協成立ノ見込立チタルト無理ニ石油ノ禁輸ヲ斷行スルモ裏切者續出シテ實效ヲ期シ難キノミナラス「ム」ハ益々頑（カタクナ）トナリ平和ノ成立困難トナルヘキコト獨ノ再軍備カ案外速ニ進行スルニ對シ少クトモ空軍ノ制限ニ付英、佛、獨ノ間ニ速ニ協定ノ要アルヲ認メタルコトニ依レト

支那方面ヨリノ情報カ南京交渉及北支ノ情勢ヲ誇張的ニ傳ヘ事態切迫一日モ猶豫シ得サルヲ感知シタル爲ナルコト最大ノ理由ナリト内聞ス

二、[2]十一日英佛大使カ英佛ノ試案申入ノ爲「ム」ト會見シタル後發表セラレタル「コムミユニケ」ニ特ニ「協力」ナル辭句ヲ挿入シタルハ英大使ノ發意ニ出テタル由ニテ兩大使ハ英、佛、伊ノ協力カ歐洲ノ再建及國際關係ノ安定ニ缺クヘカラサルヲ說キ此ノ見地ヨリ特ニ平和成立ノ要ヲ强調シタルカ佛大使ハ獨ニ對スル三國ノ協力ニ重キヲ置キタルモ英大使ハ更ニ日本ニ對スル關係迄ヲモ含マセ協力ノ要ヲ匂ハセタルモノノ如シ（支那問題ニ付蘇聯ト協力ノ意無キハ明カナリ）

英ハ支那ニ於ケル優越的地位ハ結局資力ニ優ル英ヨリモ武力ニ優ル我ニ歸スヘキヲ察知スルモ我對支進出ノ氣勢止マル所ヲ知ラス此ノ儘ニシテ進マンカ英ノ既得ノ地位モ早晩根コソギ奪ハルルニ至ラン惧ヲ懷クモノノ如ク而シテ此ノ種ノ杞憂ハ大小ノ差コソアレ佛自身モ之ヲ懷クハ佛大使、伊外務當局トノ會談中容易ニ看取セラルル所ナリ

而[3]シテ支那問題ニ對スル米ノ態度カ近來兎角煮切ラサルハ英ヲシテ一層東阿、埃及及地中海ニ於ケル事態ヲ急速ニ收拾スルノ要ヲ認メシメ來レル所以ニシテ英本國艦隊ノ地中海出動ハ歐洲及聯盟ニ於ケル英ノ權威ヲ高ムルニ力アリタルモ其ノ海軍力ヲ長ク印度洋以西ニ固定スルハ支那カ聯盟ニ出訴スルカ如キ場合ヲ考慮セハ英ノ不安ニ堪ヘサル所ト察セラル

三、「ム」カ侵略國ト呼ハレ乍ラモ强ヒテ聯盟ニ踏留マル理由ノ一ハ大國政治ニ參畫センカ爲ニテ伊「エ」紛爭ヲ對歐又ハ對東阿關係ト云フカ如キ一般的問題ト結着ケ解決スルハ其ノ從來ノ方策ニ合致シ殊ニ國論ニ對シ不滿足ナル平和條件ノ受諾カ一ニ大局的見地ヨリ決セラレタル旨釋明シ得ル便宜モアレハ「協力」云々ニ關スル英佛ノ申入ニハ大イニ滿足ヲ表シタル由ナリ

四、尙右英ノ動向ハ軍縮會議ニモ反映シツツアリト認メラル

英ヘ轉電シ米、佛、獨、白、露ヘ暗送セリ

145

昭和10年12月27日　在伊国杉村大使より広田外務大臣宛（電報）

英仏新提案失敗に対する伊国各方面の反響ならびに独国および我が国から支援を得ようとする伊国側の策動について

ローマ　12月27日後発
本　省　12月28日前着

第一八三號（極秘）

一、[1]英佛試案ノ撤回ハ英ニ於ケル反伊的傾向ノ根强サヲ示スト共ニ曩ニ英獨海軍協定カ締結セラレタル當時ト同シク英外交ノ信用ニ動搖ヲ感セシメ「イーデン」外相ノ新任ハ伊ノ上下カ意外トシタル所ニシテ「ム」ヲ初メ一般ニ「イ」從來ノ仕打ヲ怨ミ（居レ）ハ局面自ラ硬化シ不安漲ル

二、英ハ十一月頃一時惡化ノ徵アリシ北支、埃及等ノ諸問題カ近頃稍小康ヲ保ツヲ見テカ平和ノ斡旋ヲ急カス一月中旬十三人委員會ノ開カルル頃迄ニ徐ニ對策ヲ練ラントスルモノノ如クニテ急ニ一時歸英ニ決シタル英大使ハ二十六日本使ニ對シ「英トシテハ依然五人委員會提案ノ「ライン」ニテ平和ノ話ヲ進メ度キ希望ナルモ最近「ム」ハ國論ノ手前ヲ氣遣ヒテカ獨裁者トシテノ責（任）ノ過大ナルニ頭狂ヒテカ殆ト九分通リ迄承諾シ置キ乍ラ最後ノ瞬間ニ至リ拒絶スル癖アリ

從[2]テ彼ヲ相手トシテノ平和ノ話合ハ殆ト絶望トサヘ認メラルルモ三週間以來伊ノ氣勢稍衰ヘタルヤニ觀察セラレ今後三、四ケ月モセハ相當凹ムナラント察セラルルヲ以テ名案ニテモアラハ兎ニ角斯シテ四月ノ雨季迄暫ク形勢ノ推移ヲ觀望スルニ如カス英佛又ハ聯盟側ヨリ再ヒ進テ講和ノ話ヲ持掛ケンカ「ム」ハ必ス我ヲ見縊リ却テ事態ヲクネラス惧アリ」ト内話ス

三、然レトモ英カ「エ」ヲ無能力者ト看做シ聯盟援助ノ要ヲ强調シ乍ラ平和條件ノ決定ニハ之ヲ聯盟及伊ト同等ニ扱ヒ三者ノ完全ナル合意ヲ要スト主張シ居ルコト又經濟發展ニ對スル伊ノ要望ヲ是認シ乍ラ（而シテ右ハ單ニ伊ノ利益ナルノミナラス伊ノ發展ノ氣勢ヲ東阿ニ轉スルハ歐洲及地中海ノ平和ヲ確保シ得ル所以ナルヲ知ルニ拘ラス）「エ」ニ對シ之ヲ拒否スルノ自由ヲ認メ居ルハ條理ニ反スト評スル者アリ殊ニ英ノ國論及議會カ侵略國ニ褒美ヲ與フヘカラストテ徹底的ニ伊ヲ懲罰セントシ

且[3]ツ現ニ平和交渉ノ成行ヲ監視シ動モスレハ政府ニ對シ

大ナル掣肘ヲ加ヘントスルハ常軌ヲ逸スト難スル者アリ或ハ又英ノ態度カ改マラサル限リ妥協ノ成立ハ覺束ナシト說ク者モアルカ貴見如何ト問ヘハ英大使ハ必スシモ英ノ主張及遣口ヲ辯護セサリキ然ラハ平和條件ノ内容ハ主トシテ利害關係國間ニ協定シ聯盟ハ該協定カ規約ノ精神ニ反セサルヤノ點ノミヲ吟味セハ足ルト論スル者アルカ如何トノ問ニ對シテモ英大使ハ反對セサリキ

四、平和會談ノ能否ハ主トシテ局面ノ展開如何ニ依リ決セラルヘキカ東阿ニ於ケル伊軍ハ最近寧ロ「エ」軍ノ逆襲ニ惱マサレ又伊軍ノ進擊ノ先頭ニ立タシメラレタル土民兵ハ近來疲勞シ盡シテ用ヲ爲サスト傳ヘラレ而シテ「エ」軍モ亦今トナリテハ頽勢ヲ挽回スル力ナキ模樣ナレハ近ク戰局ニ大ナル變化アリトハ察セラレス（尤モ佛大使ハ猶ホ伊軍ノ將來ニ多少ノ望ヲ繫クモノノ如シ）

次[4]ニ聯盟ノ制裁カ英ノ外相更迭ヲ契機トシテ急ニ强化セラルヘキヤニ傳フルモノアルモ石油ノ禁輸ハ一月中旬米ノ態度カ確定スル迄ハ實行六ケ敷ク而シテ制裁ニ對スル伊擧國一致ノ努力ニハ眞劍ナルモノアリ其ノ耐久力必スシモ輕視スヘカラス

尙英大使ノ口吻ニ依ルモ英當局ニ於テ伊ノ自暴自棄的不意打ヲ惧ルルハ眞ニ意外ニ覺ユル程ニテ先般希、土、西等ニ地中海ニ於ケル海軍ノ相互援助ニ付申入ヲ爲シタルハ實ハ是等諸國ノ不同意又ハ無準備ヲ指摘シテ制裁ヲ强調スル國論ヲ警戒スル魂膽ニ出テタルナリト噂スルモノアリ

五、英ノ新外相ハ英佛試案ノ失敗ハ充分ニ輿論ヲ準備セサリシニアリト爲シ今後ハ國論ヲ指導シ乍ラ徐々ニ平和ノ工作ヲ進メントスル肚ラシク英大使ハ今猶ホ往電第一七九號三ノ「ム」ノ心情ヲ利用セハ英佛トシテハ愈平和解決ノ名案ナキ場合ニモ何トカ話ヲ纏メ得ヘシト多寡ヲ括リ居レリ

尙[5]伊ニ於テハ外務當局ヲ初メ内心英佛試案ノ不成立ニ失望スル向多ク夫カ爲カ平和條件ノ決定ニハ徒ニ戰爭氣分ノミニ捉ハレス平和的ニ將來永ク發展シ得ル樣專ラ名ヲ捨テ實ヲ取ルノ策ニ出ツヘシトノ說擡頭シ始メタル由ナリ

六、日獨ノ支援ヲ得ントスル伊ノ努力ハ其ノ後依然繼續セラレ我ニ對シテハ主トシテ蘇聯及英ニ對スル關係上或種ノ

默契ヲ得ントスルモノノ如ク日本通ト看做サルル諸方面ノ人士ヲ狩出シ種々話ヲ持掛クルモ未タ一定ノ腹案アルニハアラサル模樣ナレハ然ルヘク扱ヒツツアリ尤モ多少見識アル向ハ日伊ノ接近ニ内外ノ障碍多キヲ察シ唯漠然ト我ニ於テ伊ニ對シ理解アル態度ヲ執ランコトヲ希望ス在歐各大使（土ヲ除ク）壽府ヘ暗送セリ

146　昭和10年12月29日　在仏国鈴木（九萬）大使館一等書記官より広田外務大臣宛（電報）

エチオピア到着後における同国の状況につき報告および日本赤十字を通じての救護物資送付等による同国への援助強化に関し意見具申

アディスアベバ　12月29日前発
本　省　12月29日夜着

第三號

往電第一號ニ關シ

一、二十五日「ヘルイ」外務大臣ニ着任ノ挨拶ヲ爲ス同外務大臣ヨリ年來待兼ネタル公使館ノ開設カ愈實現シタルヲ衷心喜フ旨ヲ述フ皇帝ハ目下「デシエ」ニ赴カレ居ルニ付御歸還ノ上謁見スルコトトシ外交團（白耳義、英國、佛國、獨逸各公使、米國、土耳古各代理公使、希臘辨理公使、埃及、瑞典各領事）トモ聯絡ヲ着ケタリ

二、當地ハ在留外國人モ相當引揚ケ一時百名以上ニ上リタル新聞記者モ殘リ少トナリ人心比較的平靜ナリ各公使館ハ地下避難所ヲ造リ鐵條網ヲ繞ラシ伊軍ノ空爆住民又ハ軍隊ノ騷亂等ニ備ヘ居ルモ目下ノ所危險ナシト見ル者多シ萬一ノ場合ハ「ボダール」佛國公使ノ好意ニ依リ同公使館ニ避難ノ手筈ヲ爲シ居レリ

三、服部大尉（最近「オガデン」戰線ヲ視察セリ）各國公使、新聞記者等ノ話ヲ綜合スルニ最近「オガデン」及「テイグレ」ノ戰線ニ於テ「エチオピア」側カ幾分ノ勝利ヲ得タルコト事實ナルカ如シ然シ乍ラ「エ」側モ財政困難ニテ多數農民ヲ徵兵セル爲農作ノ方疎トナリ經濟上ノ困難モアリ武器爆彈モ不充分ナリ他方伊軍モ天險及病氣ト苦鬪シ「ゲリラ」戰線ニ惱マサレ結局戰局ハ現在線ヲ中心トシテ大ナル動キヲ見セサルヘシト爲ス者多シ皇帝ハ人心收攬ノ必要ヨリ「デシエ」ニ赴カレタルモ伊軍ハ皇帝ヲ目掛ケテ空爆シ居リ萬一ノ事アラハ事態ニ急變ヲ生ス

ヘシト見ラル

四、佛宛貴電第二〇九號ニ關シ此ノ際切メテ差觸リ少キ非政治的方面ニ於テ「エ」側ニ對スル同情ヲ表シ置クコト將來必要ナルヘキカト認メラルル處赤十字救護事業ニ關シ米國、西班牙、希臘、「リツアニア」、羅馬尼、暹羅、瑞西、蘇聯邦、「ユーゴ」各赤十字ヨリ救護材料ノ寄贈アリシ外英國、芬蘭、和蘭、諾威、瑞西等ヨリ救護班ヲ派遣シ居レリ（英國ハ二班派遣シ居ル實情ニテ日本赤十字ニ於テ尚奮發シ救護班ヲ送ルコト困難ナリトセハ少クトモ一層多數ノ救護材料ヲ至急寄贈センコト希望ニ堪ヘス）

五、公使館建物ニ就テハ政府筋ヨリ第二王子「マコーナン」殿下ノ御住居トシテ建築シタルモノヲ提供セントノ話山内大每通信員ニ對シテ爲サレタルコトアリシ趣ナルカ右ハ結局同王子ノ御住居ニ決シ政府ハ皇宮ト外務省トノ間ニ位シ公使館區域ニ遠カラサル政府ノ建物（新築中ニテ完成迄ニ三週間位掛ル見込）ヲ貸與シ吳ルル筈ニテ目下交渉中改メテ稟請スヘキカ不取敢

六、十一月半先着ノ服部大尉ヨリ多大ノ援助ヲ得居レリ

佛ヘ轉電セリ

佛ヨリ英、獨、伊、壽府ヘ暗送ヲ請フ

四　諸外国との外交関係

1　日米外交関係*

147　昭和10年2月12日　在米国斎藤大使より広田外務大臣宛（電報）

満州問題に関するリットンの講演会と米国側反応について

別　電　二月十二日発在米国斎藤大使より広田外務大臣宛第七六号

右講演会の概要

ワシントン　2月12日後発
本　省　2月13日前着

第七七號

來米中ノ「リツトン」卿ハ十日當地ニ於テ滿洲問題ニ關シ大要別電第七六號ノ如ク講演シ聽衆千五百名ヲ超エ十一日ノ諸新聞モ詳細之ヲ報シタリ

右ニ於テ當國演說會ノ例トシテ所謂Panel member五名ヲ選ヒ前次官「カツスル」上院議員「エルバート、トーマス」Sir Willmt Lewis（Willmott）（倫敦「タイムス」華府特派員「フレデリツク、モーア」及下院議員Wadsworth之ニ當リタル處「モーア」ノ内話ニ依レハ右五名ハ大体「リツトン」ト反對側ノ立場ニアリ講演後種々質問ヲナシ聽衆ヲシテ一層良ク論點ヲ了解セシメントスル仕組ナリシカ新聞ニハ「リツトン」ノ主張ノ大筋ハ「パネル」モ同感ナルコトヲ認メタル樣報セラレ居ルモ實ハ右五名ハ何レモ實際問題ニ付テハ「リツトン」ノ主張ヲ肯定シ得サルコトニ一致セル由又右ノ後「モーア」カ關係者及國務省方面ノ人々ト意見ヲ交ヘタル處ニ依レハ「リツトン」ハ英米提携實現ノ爲一臂ノ力ヲ致サントシテ渡米シタルモノノ如ク（費府其ノ他各地ニ於テ尚講演ノ筈）其ノ爲海軍問題及極東問題ヲ取上ケ米國カ日本ト正反對ノ主張ヲ持シ居リ且其ノ極東ニ於ケル重大利益カ危殆ニ瀕スルコトヲ指摘シテ此ノ際英國ト提携スルヨリ外此ノ困難ナル狀態ヲ有利ニ展開セシムル途ナキコト